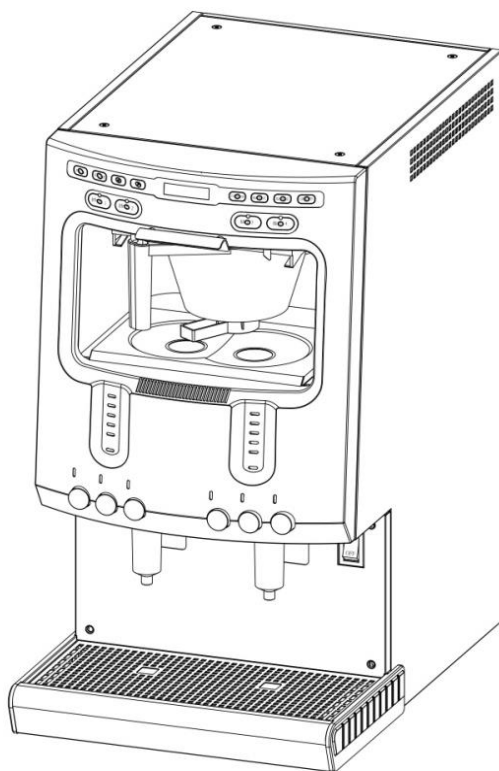


CAFÉ-TRÔNE

お客様用

—取扱説明書—

型式:CT-F(P)3/200・CT-F(P)S/200 (業務用)



●このたびは、当社のコーヒーマシン「カフェトロン」をお買い求めいただきましてまことにありがとうございました。

●この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになれるまえにこの取扱説明書をよくお読みになり十分に理解してください。

●お読みになったあとは、いつも手元においてご使用ください。

●保証書は、この取扱説明書の最終ページに記載されております。必ず「お買上げ日・お買上げ店名」等の記入をお確かめください。

保証書付

目 次

本機をお使いになる前に 1

安全上のご注意・・・・・・・・・・	1
本機のご使用にあたって	
必ず守ってください・・	2・3
各部の名称とはたらき	
本体・・・・・・・・・・	4・5
取出ユニット部・・・・・・・・	6・7
操作スイッチ部・・・・・・・・	8・9

第1章 使用前の準備 10

本機の操作には必ず守ってください	10・11
本体のメインスイッチを入れる前に	12
本機の立ち上げかた・・・・・・・・	12・13

第2章 抽出のしかた 14

ドリップコーヒーの抽出のしかた	14～17
ドリップコーヒーの取り出しかた	18・19

第3章 洗浄・清掃のしかた 20

本機の洗浄・清掃時には	
必ず守ってください	20・21

毎日おこなう洗浄と清掃

ファンネルの洗浄・・・・・・・・	22
ドリップタンクの自動洗浄・・・・・・・・	22～25
ドレンプレート、ドレンパンの洗浄と清掃・・	26

週に1～2回おこなう洗浄と清掃

ドリップシャワープレートの洗浄・・・・・・・・	27
ドリップタンク蓋の洗浄・・・・・・・・	28
コーヒーノズル（延長ノズル）の洗浄・・	29
本体外装の清掃・・・・・・・・	29

第4章 お手入れと点検 30・31

第5章 プログラムの設定について 32

プログラムの概要

プログラムモードに入るには・・・・・・・・	32
プログラムモード・・・・・・・・	33

各プログラムモードの設定のしかた

自動立ち上げモード・・・・・・・・	34～36
時計モード・・・・・・・・	37～39
ドリップ抽出モード・・・・・・・・	40～43
コーヒー取り出し量モード・・・・・・・・	44・45
温度モード・・・・・・・・	46～48

第6章 据付けについて 49

本機の据付け時には	
必ず守ってください	49・50
据付工事・・・・・・・・	51～54
据付け・・・・・・・・	55～59

仕様【CT-F（P）S／200】・・	60
【CT-F（P）3／200】・・	60
商品保証書・・・・・・・・	61



本機をお使いになる前に

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。




表示と意味は次のようになっています。

[注意喚起シンボルとシグナル表示の例]

 警告	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

*物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

[図記号の例]

 感電注意	△は、注意(警告を含む)を示します。 具体的な注意内容は、△の近くや中に絵や文章で示します。 左図の場合は「感電注意」を示します。
 接触禁止	○は、禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、○の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「直接手を触れないこと」を示します。
 プラグを抜く	●は、行動の命令(強制)を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「差込みプラグをコンセントから抜く」を示します。

本機の使用にあたって必ず守ってください

⚠ 警告		
●漏電遮断器または、サーキットブレーカーが「OFF(切)」に作動したときは、お買上げ店に連絡すること	無理にレバーを「ON(入)」にすると、感電や火災の原因になります。	 連絡
●異常時はメインスイッチを切り、本機専用電源を「OFF(切)」にしてすぐに お買上げ店に連絡すること	異常のまま使用を続けると感電、火災の原因になります。	 専用電源切
●機械内部の電源装置や配線に触れないこと	やけどや感電の恐れがあります。	 接触禁止
●ガス器具などからガスが漏れていたら、ガスの元栓を閉めて、窓を開けて換気すること	引火爆発し、危険です。	 ガス栓閉
●修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理はおこなわないこと	異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると、感電、火災の原因になります。	 分解禁止
●改造は絶対におこなわないこと	改造されると、水漏れや感電、火災の原因になります。	 改造禁止
●移設は専門業者か、お買上げ店に相談すること	据え付け不備があると、水漏れ、感電、火災などの原因になります。	 専門業者
●廃棄は専門業者か、お買上げ店に依頼すること	放置しますと、幼児などがケガをする原因になります。	 専門業者

⚠ 注意

●本機の上に重量物や水を入れた容器を置かないこと

落下してケガをしたり、こぼれた水で電気部品の絶縁が悪くなり、漏電の原因になることがあります。



禁止

●可燃性のスプレーを近くで使用したり、近くに可燃物を置かないこと

発火の原因になることがあります。



可燃物禁止

●製品にもたれたり、乗ったりしないこと

やけどや製品転倒によるケガの原因になります。



禁止

●点検するときは、必ずメインスイッチを切って、本機専用電源も「OFF(切)」にすること

感電したり、ケガの原因になることがあります。



専門電源切

●電源プラグを使用している場合、プラグを抜くときは、電源コードを持って抜かないこと

必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っばるとコードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。



禁止

●一週間以上ご使用にならない場合は、安全のためメインスイッチを切って、本機専用電源も「OFF(切)」にし、電源プラグを使用する場合は、コンセントから抜くこと

発熱、発火の原因になることがあります。



専用電源切

●漏電遮断器は月に1回、動作確認すること

漏電遮断器を故障のまま使用すると、漏電のとき動作せず、感電の原因になることもあります。



動作確認

●本機を他に売ったり、譲渡されるときには、新しく所有者となる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書を商品本体の目立つ所にテープ止めすること



テープ止め

●専用のコーヒーファンネルを外す際

専用のコーヒーファンネル内に、お湯又はコーヒーが残っている場合などは、機器より取り外しの際、やけどの原因になる事があります。

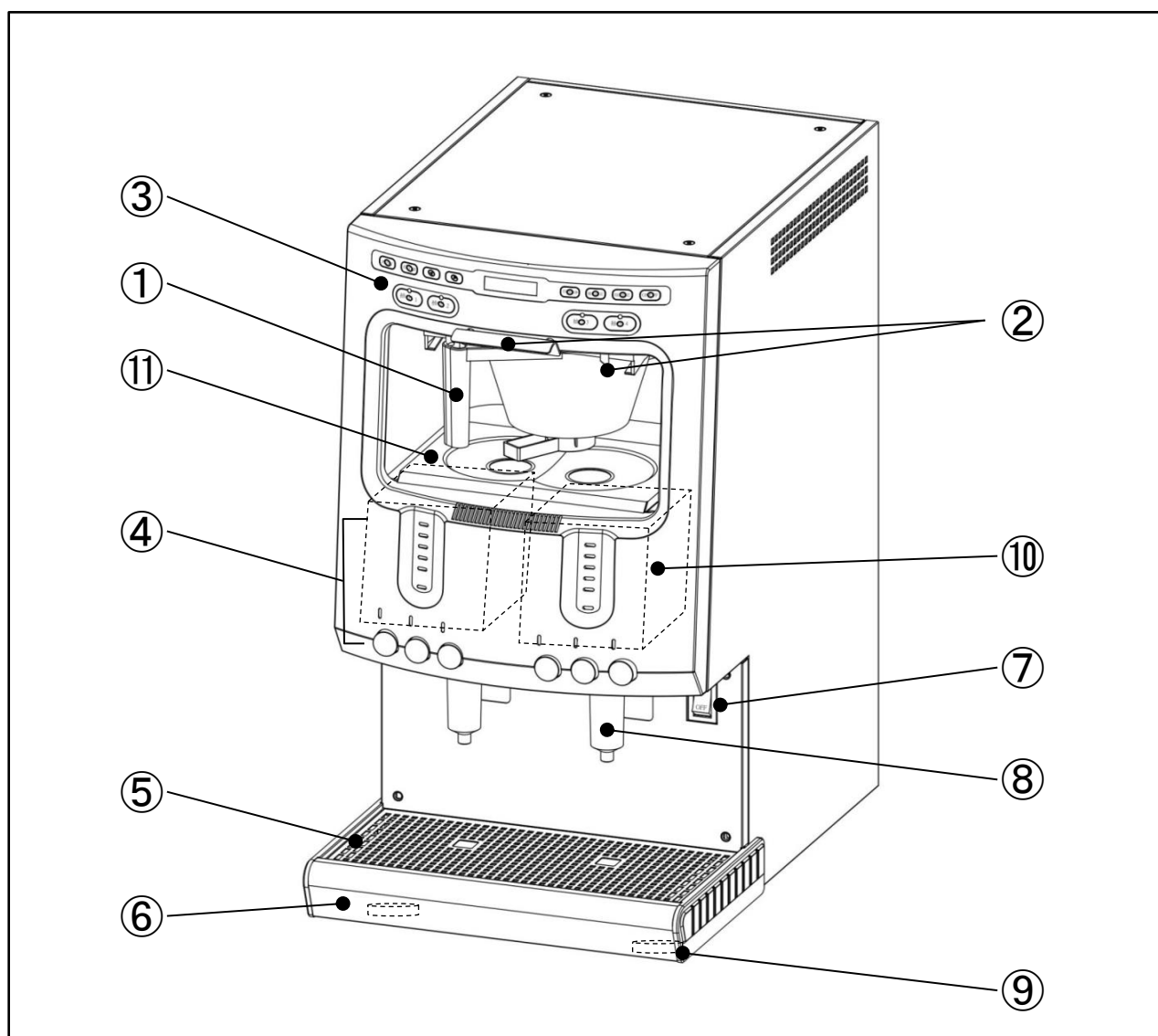


ファンネル

各部の名称とはたらき

●本機はドリップコーヒーを抽出する機械です。

本 体



①ファンネル

コーヒー粉を入れたペーパーフィルターをここにセットします。

②ファンネルロック

抽出中に誤って、ファンネルを引き出さないための安全機構になります。

③操作スイッチ部

抽出モードの設定やプログラム設定をおこないます。

詳しくはP6、7 操作スイッチ部を参照してください。

④抽出ユニット部

各メニューの抽出をおこないます。

詳しくはP8、9 抽出スイッチ部 を参照してください。

⑤ドレンプレート

コーヒーを取り出すとき、カップなどをここに置きます。

⑥ドレンパン

廃液を受けます。

⑦メインスイッチ

電源ON/OFFします。

(本体にあるメインスイッチがONになっていれば、ON/OFFスイッチがOFFでも機械は通電した状態になります。

詳しくはP12、13を参照してください。

⑧コーヒーノズル(延長ノズル)

ドリップタンク内のコーヒーがここから出ます。

デカンタ使用時は奥へ押し込みます。

⑨アジャスト脚

本体を水平に保つために調整できます。

⑩ドリップタンク(本体内)

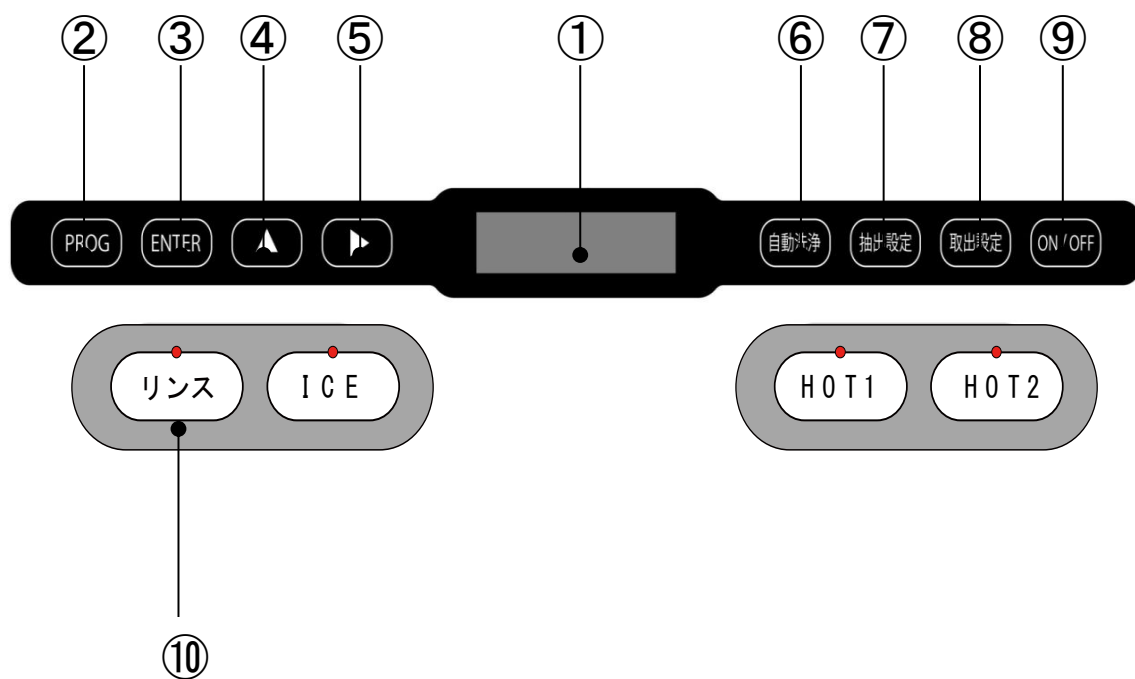
抽出したドリップコーヒーを保温しておきます。(左右2連)

⑪ドリップタンク蓋

コーヒーを抽出する際に使用します。

コーヒーの保温効果もあります。

操作スイッチ部



①ディスプレイ

現在の機械の状態を表示します。
また各種のメッセージやプログラムの設定
内容を表示します。

②PROGスイッチ

プログラム設定時に使用します。

③ENTERスイッチ

プログラム設定の際、設定内容を登録します。

④↑スイッチ

プログラム設定の際、設定値を大きくします。

⑤→スイッチ

プログラム設定の際、カーソルを移動します。

⑥自動洗浄スイッチ

ドリップタンク内を自動洗浄します。

⑦抽出設定スイッチ

ドリップコーヒーの抽出スケジュールを
設定します。

⑧取出設定スイッチ

ドリップタンク内のコーヒー取出し量を
設定します。

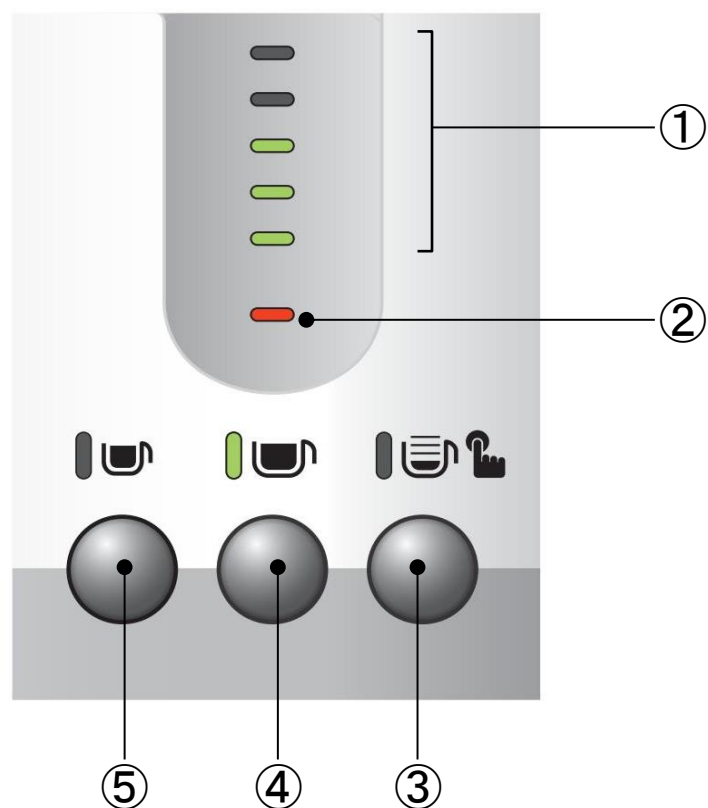
⑨ON／OFFスイッチ

電源をON／OFFします。
(本体にあるメインスイッチがONになって
いれば、ON/OFFスイッチがOFFでも
機械は通電した状態になります。
詳しくはP12、13を参照してください。

⑩各抽出スイッチ

ファンネルを使用してシャワー部分から
コーヒーの抽出をおこないます。
もう一度押すとキャンセルできます。

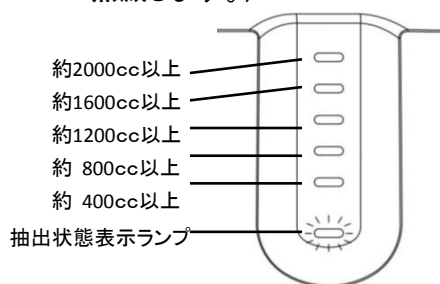
抽出スイッチ部



①ドリップタンク残量ランプ

タンク内のコーヒー残量が確認できます。各ランプの点灯時のコーヒー残量は下図のとおりです。

残量が約400cc未満になると一番下の抽出状態表示ランプのみが点灯(もしくは点滅します。)



②抽出状態表示ランプ

コーヒーの抽出が可能なときは緑に、抽出中、あるいは温水タンク内の湯温が低く、コーヒー抽出不可能なときは赤く点灯します。後だれ中は赤く点滅します。

抽出中や後だれ中はやけどしないようファンネルは抜き出さないでください。
※自動洗浄中は赤色に点灯します。

③コーヒー取り出しスイッチ(連続)

ドリップタンク内のコーヒーが連続して出ます。止めるときはもう一度スイッチを押します。コーヒーが出ている間、スイッチ上のランプが点灯します。

1秒間に約20ccのコーヒーが出ます。
0～999(16分39秒)まで設定できます。

④コーヒー取り出しスイッチ(大)

設定した量のコーヒーがドリップタンクから出ます。一般的にこのスイッチにはカップ一杯取りの設定をします。コーヒーが出ている間、スイッチ上のランプが点灯します。1秒間に約20ccのコーヒーが出ます。0～999秒(16分39秒)まで設定できます。

⑤コーヒー取り出しスイッチ(小)

設定した量のコーヒーがドリップタンクから出ます。一般的にこのスイッチにはカップ一杯取りの設定をします。コーヒーが出ている間、スイッチ上のランプが点灯します。1秒間に約20ccのコーヒーが出ます。0～999秒(16分39秒)まで設定できます。

1 使用前の準備

この章では本機を使用する前の準備について説明します。使用前には、専用電源と水道栓の確認、温水タンク内の水抜きなどをおこなってください。

本機の操作時には必ず守ってください

⚠ 警告

- 濡れた手で電源プラグなど(電源プラグ使用の場合)電気部品に触れたり、各スイッチを操作しないこと

感電の原因になることがあります。



濡れ手禁止

- コーヒーを取り出す場合、容器はドレンプレート上に置くこと

持ったまま取り出すと、やけどの原因になります。



ドレンプレート

⚠ 注意

●排水管に詰まりがないか始業時に点検をおこなうこと

排水管が詰まると、漏水から周囲を濡らす原因になることがあります。



排水点検

●断水の際は、メインスイッチを『OFF(切)』にし、水道栓を閉めること

開けておくと通水時“赤水”が発生し、不衛生な水が機械に給水されます。



断水時閉弁

●断水後や定休日明けの使用前には、必ず機械内部の水を入れ替えこと

水の腐敗から、健康障害の原因になることがあります。



水入れ替え

●ファンネルの中には、コーヒー粉以外のものは入れないこと

本機は、コーヒー抽出を目的として作られています。それ以外の用途には使用しないでください。



禁止

本体のメインスイッチを入れる前に

- 本体のメインスイッチを入れる前に、以下の作業をおこなってください。
- 「自動立ち上げタイマー」を使用している場合は、閉店時に本機専用電源および本体のメインスイッチを切らないでください。また、水道の元栓を閉じないでください。

- 1 本機専用電源(漏電遮断器付サーキットブレーカー)を入れます。
- 2 水道の元栓が開いていることを確認します。

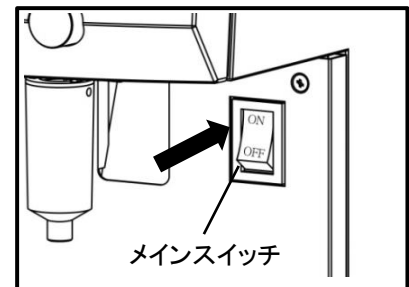
本機の立ち上げかた

- 1 本体の『メインスイッチ』をONにします。

- 『メインスイッチ』を上側にたおし、ONにしてください。

メモ

メインスイッチを2日以上切ったままにすると、日付、曜日、時刻が工場出荷時の設定に戻ります。
このときはP37「日付と時刻の設定」を参照して現在の日付と時刻に設定しなおしてください。



約3秒後、右のような表示が出ます。

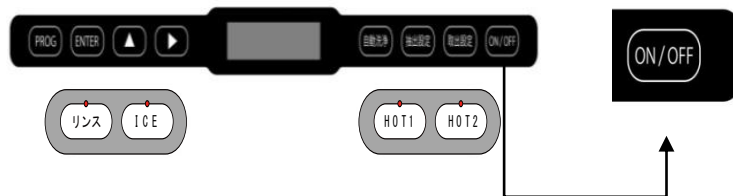
現在の日付、曜日です。

2012/04/01	SUN
Ver 0.10	17:26

本機のプログラムの
バージョンです。

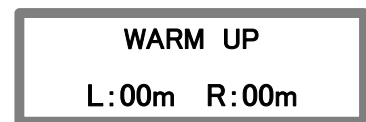
2 『ON／OFFスイッチ』をONにします。

- ①操作スイッチ部にある『ON／OFFスイッチ』を押し、ONにしてください。



プログラムディスプレイに右のような表示があらわれます。

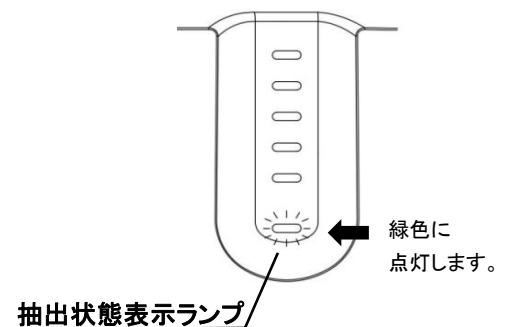
自動的に温水タンクへの給水がおこなわれます。
給水時間は約5分です。その後、昇温が始まります。



- ②温水タンク内の昇温が完了すると、抽出部の「抽出状態表示ランプ」が緑色に点灯してコーヒーの抽出が可能になります。
昇温には下記の時間が必要です。

約15分

※水温により必要な時間は多少異なります。



2

抽出のしかた

ここではドリップコーヒーの抽出・取り出しのしかた、熱湯の取り出しかたについて説明します。

ドリップコーヒーの抽出のしかた

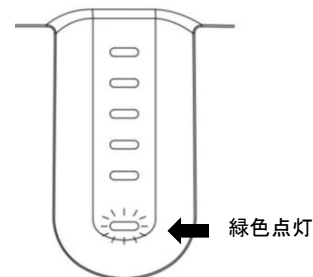
1 「抽出状態表示ランプ」が緑色であることを確認します。

- 設定温度に昇温し、抽出準備が完了すると抽出状態表示ランプが緑色に点灯します。

※表示ランプが緑色に点灯していない場合

表示ランプが「赤色に点灯」している場合は、昇温中で、温水タンクがまだ設定温度に達していません。

表示ランプが「赤色に点滅」している場合は、前回の抽出の後だれ中ですので、数分間待つ必要があります。



2 抽出前に、予熱のために左右ドリップタンクにファンネルを使って熱湯を入れます。

(始業時及び長時間タンクが空の場合)

①ファンネルをセットしてください。

このとき、ペーパーフィルター、コーヒー粉はセットしないでください。

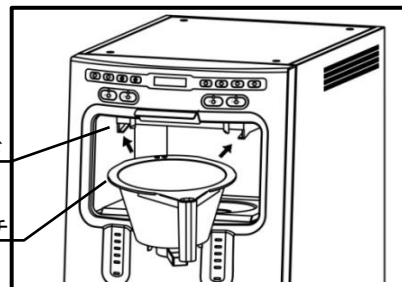
ファンネルのフチを本体のファンネルガイド状をすべらせるようにして差し込んでください。ファンネルを装着する時には必ず上部取手を上げて、ファンネルロックをします。

ファンネル

ガイド

ファンネルの

フチ



※注意

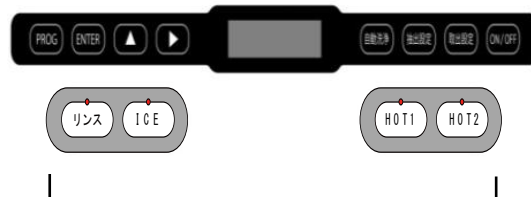
このときファンネルを左右どちらかのドリップタンクへ正しくセットして下さい。

図は右のドリップタンクへ給湯が可能な状態です。ディスプレイの「R」の文字が点滅します。

②抽出量の多いモードを『HOT1またはHOT2』

を選んで押してください。

スイッチが赤点灯に変わり、予熱のための熱湯シャワーがドリップタンクに抽出されます。シャワーは設定量が出た後、自動で停止します。シャワーが止まると約2分間(工場出荷時)、抽出状態表示ランプが赤く点滅します。抽出が完了すると赤点滅が終了しますので、ファンネルを抜く場合ファンネルロックの上部取手を持ち上げてください。



※押されたスイッチが赤く点灯

3 コーヒー粉をセットします。

①ペーパーフィルター(1枚)に抽出量に応じた量のコーヒー粉を入れてください。

・コーヒー粉のめやす

抽出量	コーヒー粉
1L	約60g
2L	約100g

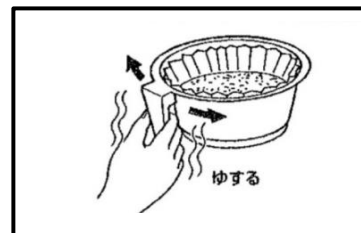
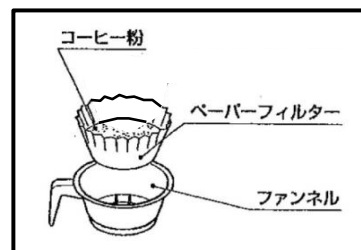
メモ

- コーヒー粉の量は豆のメッシュ、種類、好みに応じて増減してください。豆のメッシュは、中挽きが適当です。(普通のドリップ用程度)
- 1回の抽出で利用できるコーヒー粉の量は約200gまでです。
200g以上で抽出をおこなうとペーパーフィルター上端からコーヒーが溢れることがあります。
- ペーパーフィルターは必ず1枚でご使用ください。誤って2枚重なったまま使用しますとファンネル上端よりコーヒーが溢れ、やけどの恐れや機械内部に侵入した場合、漏電の原因になることがあります。

②コーヒー粉を入れたペーパーフィルターをファンネルにセットしてください。

・1L以下の抽出ではペーパーフィルターが内側に倒れないように、ペーパーフィルターガイドを装着してください。

・ペーパーフィルター内のコーヒー粉が平らになるようにファンネルを軽く左右にゆすってください。

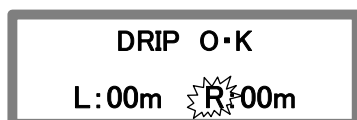
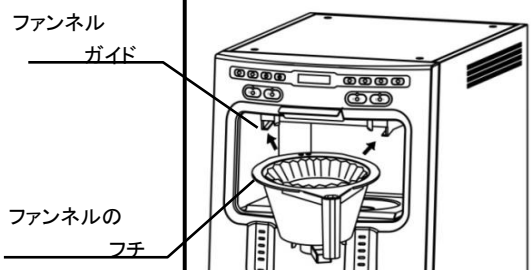


③ファンネルを抽出したいドリップタンクの方へセットして下さい。

※注意

このときファンネルが左右どちらかのドリップタンクへ正しくセットして下さい。

(図は右のドリップタンクへの抽出可能状態です。
ディスプレイの「R」の文字が点滅します。)



4 予熱のために入れたお湯を抜きます。(始業時のみ)

- 『コーヒー取り出しスイッチ(連続)』を押してお湯を抜いてください。お湯が全て出たら、もう一度スイッチを押して、取り出しを停止してください。

メモ

予熱のために入れたお湯を抜いたとき、お湯が白濁している場合は、前日の終業時におこなった自動洗浄が停電等の理由で中断し、ドリップタンク内に漂白剤成分が残っていた可能性があります。このときはコーヒー豆をセットせずにもう一度「HOT1またはHOT2」のどちらかを押して、ドリップタンク内にお湯を満タンに貯めて洗浄してください。

※注意

ドリップタンクが空の状態、取り出しスイッチを押さないでください。空で取り出し動作を多くするとコーヒー取り出し部の寿命が短くなる原因になります。



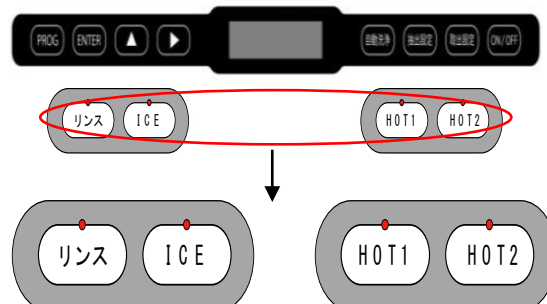
5 コーヒー粉の量に応じた抽出量を選択します。

- 『各スイッチ』を選んで、押してください。

リンスの動作

200cc抽出後→ 20sec排出動作

※注意 リンスボタン押すとお湯がコーヒータンクに貯められ、お湯が自動排出されます。コーヒー取り出し口に注意し、飛び散りなど機器からの水漏れにならないように対応をお願いいたします。



ICEの動作

200cc抽出後→ 20sec蒸らし → 2000cc抽出動作中に自動排出動作
(4個目LED点灯時排出)

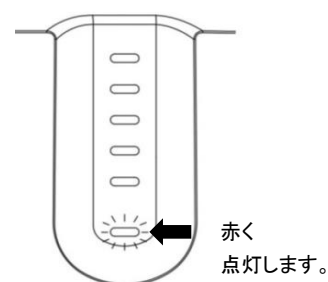
※注意 ICEボタン押すと約1600ccのコーヒー(LED4個点灯時)がたまるとコーヒーノズル及び取りだし口より排出されますので、容器で受けるなど出口には手を置かないでください。

HOT1 HOT2の動作

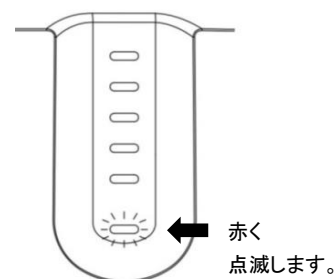
設定された抽出量にてドリップ動作 変更は P40を参照願います。

6 いずれかの『抽出スイッチ』を押し、コーヒーを抽出します。

- ①「抽出状態表示ランプ」が赤く点灯して、抽出が始まります。

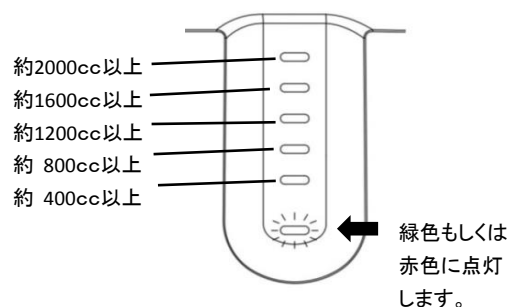


- ②給湯が終了すると、約2分間ランプが赤色に点滅します。
これは、ファンネル内に残ったお湯が、ドリップタンクに自然に落ち切るのを待っている時間です。



7 抽出が完了します。

- 抽出が完了すると、「抽出状態表示ランプ」が緑色もしくは赤色に点灯します。
- 抽出したコーヒーの量に応じて「ドリップタンク残量ランプ」が点灯します。(表示誤差±50cc程度)
- ディスプレイにドリップタンク内でのコーヒー保温経過時間が表示されます。
保温時間は30分(工場出荷時の設定値)です。



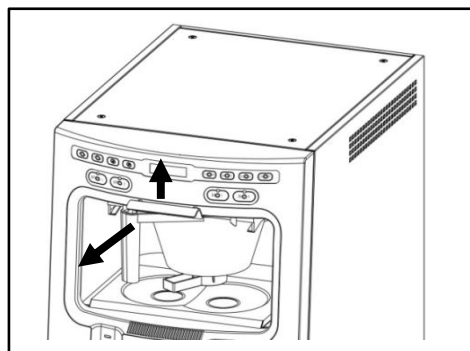
もしくは



メモ

- ディスプレイ表示の「♪」のマークは保温制御機能が有効になっていることを表しています。
※ドリップタンク内の過剰な温度上昇を防止するため、タンク内のコーヒー量が少量の場合や、長時間保温を継続した場合は安全を優先し、自動で保温機能をOFFします。
- ドリップコーヒーの抽出が完了すると、保温経過時間のカウントが始まります。保温時間が設定した時間を経過すると、保温時間の表示の点滅と、ブザーでお知らせします。
- 保温タイムリミットは99分まで設定できます。(P48参照)
- 保温タイムリミットの設定を過ぎた場合でも保温機能は継続いたします。
- 保温タイムリミット表示の点滅は次のコーヒーを抽出するまで続きます。
- タイムリミットになる前にドリップタンク内のコーヒーがなくなった場合でも、99分までカウントを続けます。再びコーヒーを抽出すると“0”からカウントを始めます。

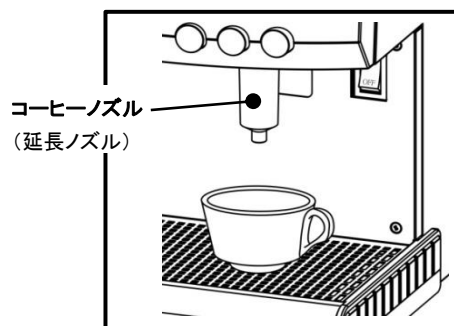
- ファンネルを取り外すときには、上部取手を持ち上げながら、ファンネルを引き出してください。



ドリップコーヒーの取り出しかた

1 コーヒーノズル(延長ノズル)の下にカップを置きます。

●右のようにカップを置いてください。

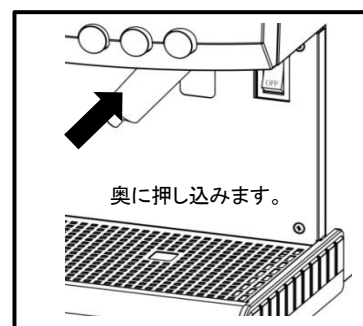


デカンタなど、背の高い容器にコーヒーを取り出す場合

コーヒーノズル(延長ノズル)を奥に押し込んでください。
一定の角度になると固定され、コーヒー取り出し口から
直接コーヒーを取り出すことができます。

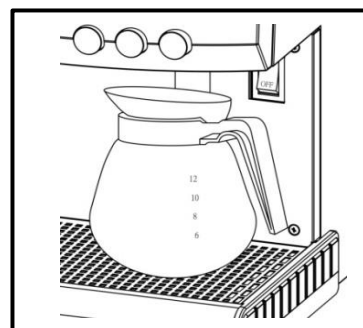
注意！

コーヒーノズル(延長ノズル)は奥へしっかりと押し込んでください。ノズルが正しく押し込まれていないと、本機の周辺にコーヒーが飛び散る原因になります。



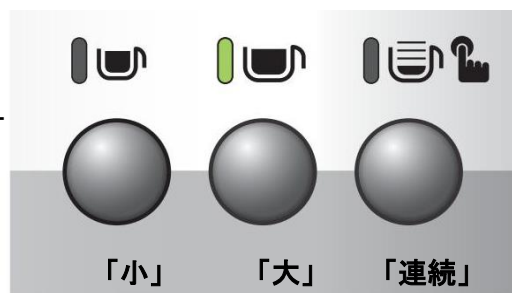
メモ

コーヒーノズル(延長ノズル)を使って取り出しができるのは、高さ100mmまでのカップなどです。
高さ100mm以上、180mmまでの容器については、コーヒーノズル(延長ノズル)を使用せずに
コーヒーを取り出してください。



2 『コーヒー取り出しスイッチ』を押します。

- 『コーヒー取り出しスイッチ』には「小」「大」「連続」の3種があります。「小」または「大」のスイッチを押すと、味合わせの際に設定した一定量のコーヒーが出て、自動的に止まります。止めるときにはもう一度スイッチを押してください。
- 連続スイッチを押すとコーヒーが連続して出ます。止めるときにはもう一度スイッチを押してください。



3

洗浄・清掃のしかた

本機の洗浄・清掃時には必ず守ってください

⚠ 警告

- 自動洗浄以外の清掃や点検のときは、必ずメインスイッチを切り、本機専用電源も「OFF(切)」にすること

感電したりやけどの原因になることがあります。



専用電源切

- 電源プラグを使用している場合、プラグを抜くときは、電源コードを持って抜かないこと

必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引張るとコードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。



禁止

- 電源プラグを使用している場合は、刃および刃の取付面にほこりが付着していないか定期的に確認し、ガタがないように刃の根元まで確実に差し込むこと

ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、感電、火災の原因になります。



点検清掃

- 本体に直接水をかけないこと

漏電、ショート、感電、錆、故障の原因になります。



水掛け禁止

- 濡れた手で電源プラグなど(電源プラグ使用の場合)電気部品に触れたり、電源スイッチを操作しないこと

感電の原因になることもあります。



濡れ手禁止

- コーヒーや熱湯の抽出直後に、シャワープレート(ドリップ)を外さないこと

シャワープレート内に残っている熱湯が落ちてきて、やけどの原因になります。



禁止

⚠ 注意

●一日の営業終了後は必ず自動洗浄すること

洗浄しないと、コーヒータンク内が汚れ。コーヒー取り出し量が不安定になり故障の原因にもなります。又、雑菌が繁殖し、健康障害の原因になることがあります。



洗浄

●付属の酸素系漂白剤「バブルクリーン」は、口に入れたり、飲んだりしないこと

健康障害の原因になります。



禁止

●自動洗浄中（酸素系漂白剤「バブルクリーン」投入時）は、電源を切らないこと
洗浄中に停電などが有った場合は十分にコーヒータンク内をすすぎ洗いする必要があります。
自動洗浄が途中で停止するとドリップタンク内に洗浄液が残ったままになることがあります。その場合、次に抽出するコーヒーと洗浄液が混ざり、誤って飲んでしまうと、健康障害の原因になります。



洗浄

毎日おこなう洗浄と清掃

ファンネルの洗浄

1 ファンネル内のコーヒーカスを捨てます。

- コーヒーの抽出が終了したら、すみやかにコーヒーカスをペーパーフィルターごと捨ててください。

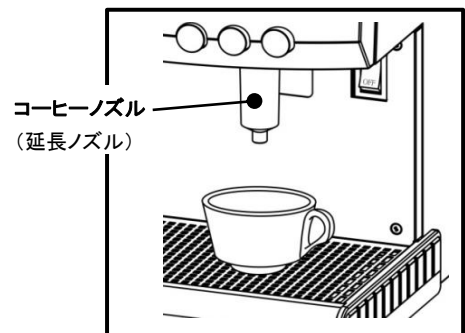
2 ファンネルを洗浄します。

- ①ファンネルを、お手持ちの食器用中性洗剤を入れた水またはお湯でていねいに洗ってください。
- ②その後、すすぎ洗いをして洗浄成分を完全に洗い流してください。
- ③乾いた布で水分を拭き取ってください。

ドリップタンクの自動洗浄

3 自動洗浄の準備をします。

- ①各ドリップタンクの中身を排出して、タンク内を空の状態にしてください。
- ②コーヒーノズル(延長ノズル)の下にカップを置いてください。
- ③ファンネルを本体から取り外してください。
- ④ドリップタンク蓋を取り外してください。



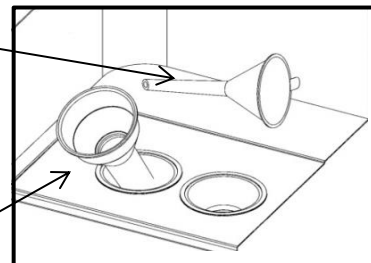
⑤左右両方のコーヒーロートを取り外してください。

⑥洗浄剤用ストレーナーを左右両方のコーヒーロートの代わりに取付けてください。

(自動洗浄後にコーヒーロートを取り付け忘れないようコーヒーロートはファンネルボックス内に置いておいてください。)

※バブルクリーンをご使用の場合は、
洗浄剤用ストレーナーは使用せず、
直接タンク内に洗浄剤を投入できます。
テルキッチンをお使いの場合は、
必ず洗浄剤ストレーナーを使用してください。

コーヒーロートはここへ
置いてください



※その他の洗浄剤は使用しないでください。 洗浄剤用ストレーナー

2 酸素系漂白剤「バブルクリーン」※を15g測ります。

※酸素系漂白剤「バブルクリーン」は以下、酸素系漂白剤と呼びます。

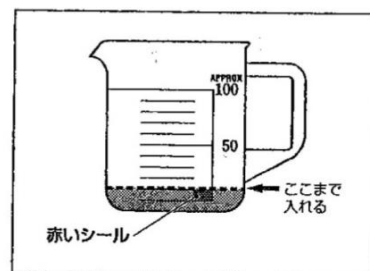
- 酸素系漂白剤を、付属の計量カップの赤い部分の上まで入れてください。
(酸素系漂白剤が水平になるように入れてください。)

注意！

この時コーヒータンク内には

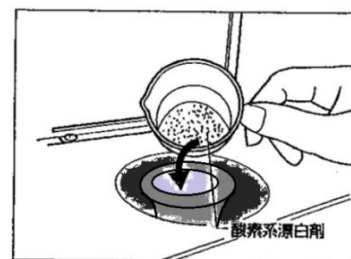
45℃以上のお湯を入れないで下さい。

洗浄液が排出されず溜まったままになり、
人災になる可能性があります。



3 ドリップタンク内、左右それぞれに酸素系漂白剤を入れます。

計量カップの酸素系漂白剤を、
左右にセットした洗浄剤用ストレーナーに投入して
ください。

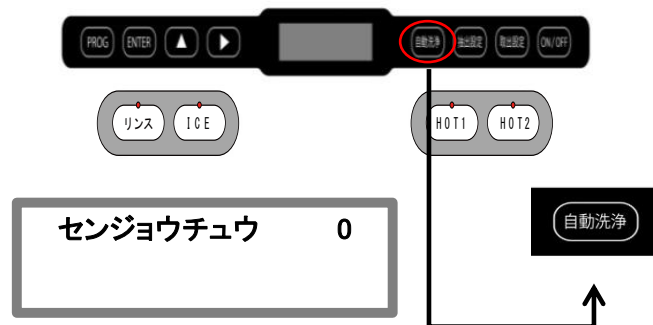


4 『自動洗浄スイッチ』を押します。

- ①電源が入っている状態で、操作スイッチパネルの『自動洗浄スイッチ』を 約3秒間押してください。

抽出状態表示ランプが赤色になります。

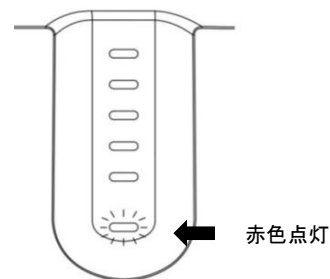
その時、洗浄に適した温度にするために、タンクからのドレンパンへお湯が適量排出されます。故障ではございません。



メモ

酸素系漂白剤を入れ忘れた場合や、誤って『自動洗浄スイッチ』を押したなどの場合、もう一度『自動洗浄スイッチ』を押すか電源スイッチをOFFにすると洗浄動作をストップすることができます。

酸素系漂白剤投入後はすみやかに自動洗浄をおこなってください。



- ②洗浄動作を自動で開始します。

自動洗浄は左右のドリップタンクへの給水、排水を3回繰り返し、合計で約1時間半かかります。

- ③自動洗浄が終了すると、自動的に『電源スイッチ』がOFFの状態になります。
(本体の『メインスイッチ』はONのままです)

メモ

自動洗浄中は、誤って電源をOFFにしないよう「自動洗浄中」の表示を本体前に立てかけるかまたは吊るすかしてください。

5 機器使用前に、酸素系漂白剤や洗浄水が残っていないことを確認します。

注意！

自動洗浄中、停電等の理由で電源が停止すると自動洗浄が正常に終了せず、本体内に洗浄液が残ったままになります。

洗浄後、最初のコーヒー抽出を行う際は、予熱のためにドリップタンクに入れた湯の色を排水時に確認してください。

洗浄液が残っていた場合は、ドリップタンク内を熱湯のみの抽出をおこなってすすぎ洗いをしてください。

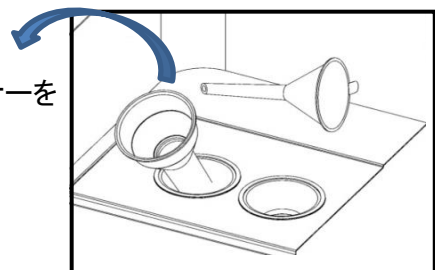
注意！

- ドリップタンクの自動洗浄中はドリップコーヒーの抽出はできません。
- 自動洗浄中は両側のドリップタンクを同時に洗浄するため、両側ともコーヒーの取出しはできません。

6 機器使用前に、洗浄剤ストレーナーを取り外してコーヒーロートを取りつけてください。

※バブルクリーンをご使用の場合は、
洗浄剤用ストレーナーは使用せず、
直接タンク内に洗浄剤を投入できます。
テルキッチンをお使いの場合は、
必ず洗浄剤ストレーナーを使用してください。

洗浄剤ストレーナーを
取り外す



※その他の洗浄剤は使用しないでください。

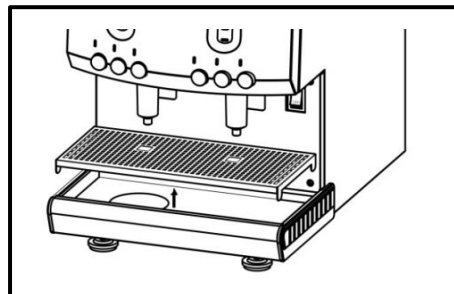
注意！

自動洗浄後、洗浄剤用ストレーナーを付けたままで
コーヒーの抽出を行うと、洗浄剤用ストレーナーに
付着した酸素系漂白剤がコーヒーに混入してしまう
原因になります。

ドレンプレート、ドレンパンの洗浄と清掃

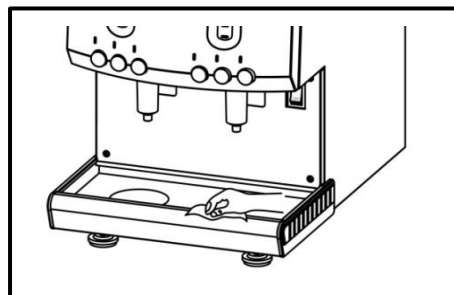
1 ドレンプレートを本体から取り外して洗浄します。

- ①ドレンプレートを、お手持ちの食器用中性洗剤を入れた水またはお湯でいねいに洗ってください。
- ②その後、すすぎ洗いをして洗剤成分を完全に洗い流してください。
- ③乾いた布で水分を拭き取ってください。



2 ドレンパンを清掃します。

- ①ドレンパンを、お手持ちの食器用中性洗剤を入れた水またはお湯を含ませた布などで拭いてください。
- ②その後、きれいな水でしぼった布で拭いてください。
- ③乾いた布で水分を拭き取ってください。



週に1～2回おこなう洗浄と清掃

ここでは週1～2回、また、汚れが目立ったときにおこなう洗浄と清掃について説明します。

ドリップシャワープレートの洗浄

ドリップシャワープレートの中にはお湯が残っています。コーヒー抽出直後には取り外さないでください。手などに熱いお湯がかかるとやけどの原因になります。

1 ドリップシャワープレートを取り外します。

- ①ドリップシャワープレート中央にあるネジを
硬貨などで反時計回りに回して外してください。
- ②ドリップシャワープレート、シャワープレート
パッキンを外してください。

シャワー
プレート
パッキン

ドリップ
シャワー
プレート

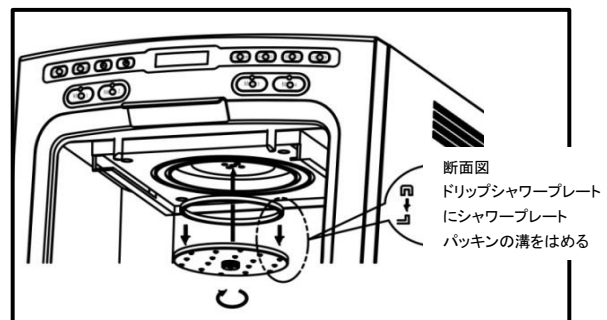


2 取り外した部品を洗浄します。

- ①シャワープレート、シャワープレートパッキンを、お手持ちの食器用中性洗剤を入れた水またはお湯でていねいに洗ってください。
- ②その後、すすぎ洗いをして洗浄成分を完全に洗い流してください。
- ③乾いた布で水分を拭き取ってください。

3 ドリップシャワープレートを取付けます。

- ①右図のようにして、ドリップシャワープレートにシャワープレートパッキンをはめ込んでください。
- ②ドリップシャワープレート中央にあるネジを時計方向に回して、本体に取り付けてください。

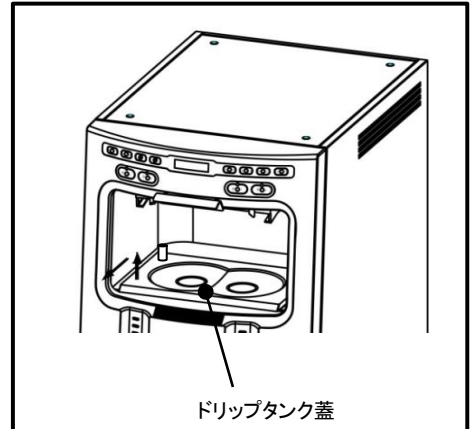


ドリップタンク蓋の洗浄

1 ファンネルを取り外します。

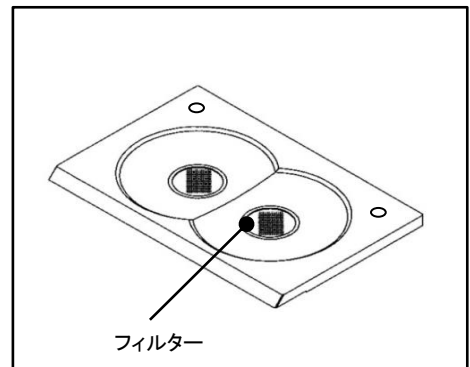
2 ドリップタンク蓋を取り外します。

- ドリップタンク蓋を持ち上げ、手前に引いて取り外してください。



3 ドリップタンク蓋を洗浄します。

- ①食器用中性洗剤をつけた柔らかいスポンジなどで洗った後、よくすすぎ洗いをしてください。
- ②汚れのひどい時は付属の酸素系漂白剤の溶液（ぬるま湯2リットルに約15g（付属の計量カップの赤い部分の上まで））に浸け置きした後、水でよくすすぎ洗いをして、洗浄成分を完全に洗い流してください。
- ③乾いた布で水分を拭き取ってください。



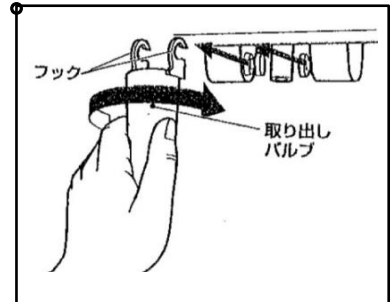
注意！

フィルター部分は細かなメッシュのため、強くこすると破れたり変形するおそれがあります。洗浄の際はあまり力を加えず、丁寧に扱ってください。

コーヒーノズル（延長ノズル）の洗浄

1 コーヒーノズル（延長ノズル）を取り外します。

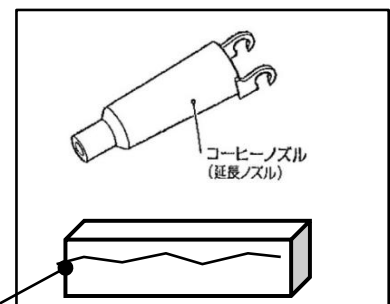
- コーヒーノズル（延長ノズル）をつかみ、回すようにひねって取り外してください。



2 コーヒーノズル（延長ノズル）を洗浄します。

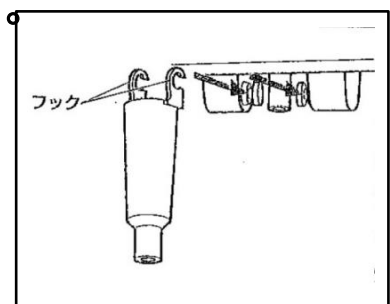
- ①酸素系漂白剤の溶液（ぬるま湯1リットルに約5g）に 浸け置きした後、すすぎの際ノズルをぬるま湯の中で振るうなどして、ノズル内の網に付いた汚れを洗い出して下さい。
その際、すすぎ洗いをして、洗浄剤成分を完全に洗い流してください。
- ②十分に水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取ってください。

ぬるま湯1L+
酸素系漂白剤約5g



3 コーヒーノズル（延長ノズル）を取り付けます。

- コーヒー取り出し口にある突起部分にコーヒーノズル（延長ノズル）のフックを当てて、“パチン”と音がするまで押し込んでください。



本体外装の清掃

1 本体外装の清掃します。

本体の外装は、中性洗剤を使用し、柔らかい布でいねいに拭いた後、洗剤成分が残らないようにきれいな水でしぼった布で拭き取ってください。

本体に直接水を掛けて洗わないでください。
漏電、ショート、感電、錆、故障の原因になります。

4 お手入れと点検

この章では本機をお使いいただく上で、必要なお手入れと点検を一覧にして示しています。

毎日のお手入れと点検

1.給排水管の点検	●給配水管の接続部やバルブより水漏れや、配水管に詰まりがないか点検をおこなってください。 異常がある場合は、すぐにお買い上げ店か専門業者に修理を依頼してください。
2.ファンネルの洗浄	●ドリップコーヒーを抽出後は、その都度ファンネルを洗浄してください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、ファンネルの洗浄をおこなってください。
3.ドリップタンクの自動洗浄	●終業時にはドリップタンクの自動洗浄をおこなってください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、ドリップタンクの洗浄をおこなってください。
4.コーヒーノズルの洗浄	●ノズル内の網部に着いた汚れを取って下さい。コーヒーの取り出し中にノズルからのコーヒー溢れの原因になります
5.ドレンプレート・ドレンパンの洗浄と清掃	●ドレンプレート・ドレンパンは、終業時に毎日洗浄と清掃をしてください。 第3章「洗浄と清掃について」を参照して洗浄と清掃をおこなってください。

週に1～2回のお手入れ

1.ドリップシャワープレートの洗浄	●ドリップシャワープレートは週1～2回、もしくは汚れが目立ったときに洗浄してください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、ドリップシャワープレートの洗浄をおこなってください。
2.ドリップタンク蓋の洗浄	●ドリップタンク蓋は週1～2回、もしくは汚れが目立ったときに洗浄してください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、ドリップタンク蓋の洗浄をおこなってください。
3.コーヒーノズルの洗浄	●コーヒーノズル(延長ノズル)は週1～2回、もしくは汚れが目立ったときに洗浄してください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、コーヒーノズル(延長ノズル)の洗浄をおこなってください。

<p>4.本体外装の清掃</p>	<p>本体の外装は、中性洗剤を使用し、柔らかい布でいねいに拭いた後、洗剤成分が残らないよう、きれいな水でしぼった布で拭き取ってください。</p> <div> <p>本体に直接水を掛けて洗わないでください。 漏電、ショート、感電、錆、故障の原因になります。</p> </div>
------------------	--

1ヶ月に1回の点検

<p>漏電遮断器動作確認</p>	<p>●漏電遮断器は、1ヶ月に1回動作確認をおこなってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)漏電遮断器のテストボタンを、指先などで押してください。 2)「OFF(切)」に切り換わるか確認してください。切り換われば、正常です。レバーが「OFF(切)」に換わらない場合は、そのままの状態ですぐにお買い上げ店へご連絡ください。 3)正常な場合は「ON(入)」にしてください。
------------------	---

1年に1～2回の点検

<p>1.浄水器カートリッジ 〈別売品〉の交換</p>	<p>●半年から1年ごとに浄水器カートリッジ〈別売品〉を交換してください。カートリッジの注文と交換のしかたは、お買い上げ店におたずねください。</p>
<p>2.アース線の点検</p>	<p>●アース線は、切れたり接続部がゆるんだりしていないか点検してください。 異常ある場合は、電気工事店に修理を依頼してください。</p>
<p>3.電源プラグの点検 (電源プラグを使用の場合)</p>	<p>●電源プラグやコードに異常な発熱や破損、重い物が乗ったり、挟み込まれたりしていないか点検してください。 異常がある場合は、電気工事店に修理依頼してください。</p> <p>●電源プラグの刃と刃の取付面、およびコンセントにほこりがついていないか点検してください。ほこりが付いている場合は、清掃してください。</p>

5

プログラムの設定について

この章では本機のプログラム内容と設定のしかたについて説明しています。

プログラムの概要

プログラムモードに入るには

- プログラムの設定はプログラムモードに入っておこないます。

通常の状態

※機械本体の『メインスイッチ』ON、操作スイッチ部の『ON/OFFスイッチ』ONの状態。



『ON/OFFスイッチ』をOFFにします。

※本体の『メインスイッチ』はONのままにしてください。



DRIP OK

L:00m R:00m

2012/04/01 SUN

Ver 0.10 17:26

操作スイッチ部の『PROGスイッチ』を押します。



ディスプレイに右の
ような表示が表れます。

オンスイタンク オンド

95℃



これでプログラムモードに入りました。

- プログラムの設定を終了するには『ENTERスイッチ』を押します。

この時、『ON/OFFスイッチ』OFFの状態になります。

『ON/OFFスイッチ』を押すとON状態になり、コーヒーの抽出が可能になります。

プログラムモード

●プログラムは内容によって複数のプログラムモードに分かれています。各モードの設定内容は以下の通りです。

●メインスイッチ:ON、ON/OFFスイッチ:OFF

2012/04/01 SUN
Ver 0.10 17:26

操作

プログラムモードを移動するときは『PROGスイッチ』を押します。



●プログラムモード



オンスイタンク オンド
95℃

コーヒータンク ホオン オンド
L: 80℃ R: 80℃

コーヒータンク ホオン OFF
10.0s

Flow Meter
0.130 cc/pulse

2012/04/01 SUN
17:26

Start ON 15:18
Stop ON 15:18

キュージツセッテイ(ヒ)
1:00 2:00 3:00

キュージツセッテイ(ヨウビ)
1:OFF 2:OFF

コーヒー ホオンジカン
L:30m R:30m

アトダレジカン セッテイ
2m00s

FANNEL CONTROL
ON

ジョウスイキコウカンジキ
OFF 04,000L

トータルスイリヨウ コウシン
リセット⇒ENTER

プログラムデータ ショキカ
リセット⇒ENTER

◆温水タンク温度

・ドリップコーヒー抽出の給湯や熱湯取り出しの際に使用する温水用のタンク温度を設定します。

◆コーヒータンク保温温度

・コーヒータンク保温温度を設定します。

◆コーヒータンク保温OFF

※最下の残量LED(約400cc)が消灯した後、10.0秒取出しをカウントすると保温機能が自動OFFします。

◆カレンダー

・現在の日時を設定します。

◆自動立ち上げ

・自動立ち上げ(自動終了)と定休日の設定をおこないます。

◆コーヒー保温時間

・コーヒー保温時間を設定します。

◆FANNEL CONTROL

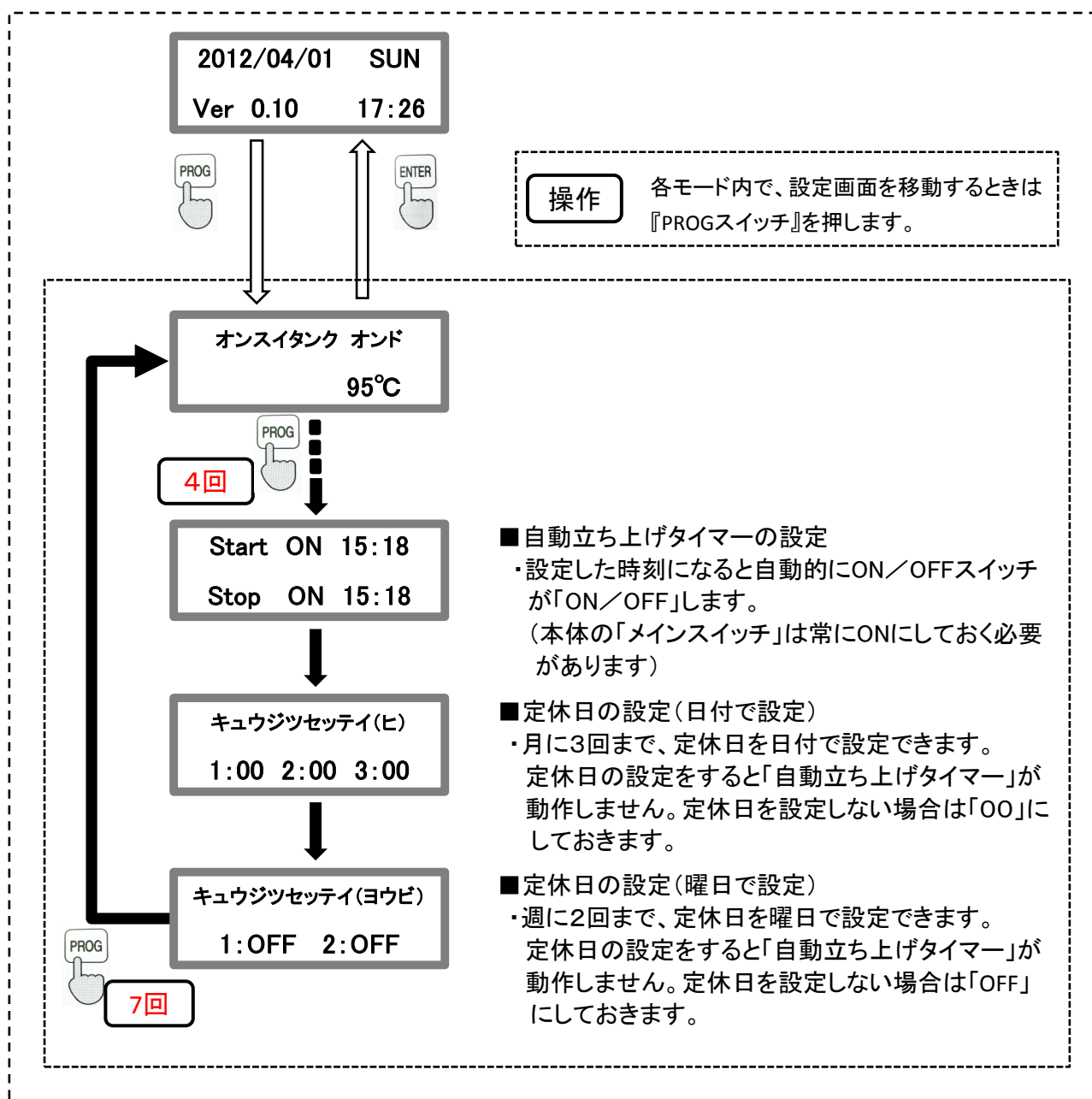
・この設定は常に「ON」で使用してください。

各プログラムモードの設定のしかた

ここでは、各モードごとの設定内容と設定のしかたについて説明しています。

自動立ち上げ

●自動立ち上げには以下の設定項目があります。

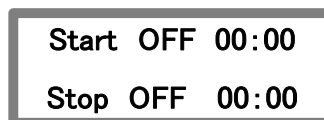


■ 自動立ち上げタイマーの設定

- 「自動立ち上げ時刻」(Start)と「自動終了時刻」(Stop)の設定をおこないます。
- 設定した「自動立ち上げ時刻」になると、自動的に電源スイッチがONになり、給水とウォーミングアップが始まります。その後、抽出可能な状態で待機します。
- 設定した「自動終了時刻」になると自動的に電源スイッチがOFFになります。
(本体のメインスイッチはONのままです)ドリップタンクの自動洗浄中に「自動終了時刻」になった場合、自動洗浄の終了後、電源スイッチがOFFになります。
- 「自動立ち上げタイマー」機能を使用しない場合は「Start」「Stop」をともにOFFの設定します。

1 「自動立ち上げタイマー」の設定画面に入ります。

- P34を参照して「自動立ち上げタイマー」の設定画面に入ります。ディスプレイに右のような表示があらわれます。

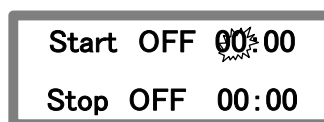


2 自動立ち上げ時刻(Start)を設定します。

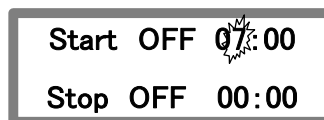
- ① 「Start」のON、OFFを設定します。
↑ スイッチを押すとON、OFFが交互に表示されます。



- ② → スイッチを押してカーソルを移動させます。
「自動立ち上げタイマー」機能を使用する場合は、自動立ち上げ時刻を設定します。

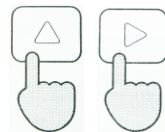


まず、「時」の設定をおこないます。
↑ スイッチを押すと数値が大きくなります。設定したい数値が表示されたら→スイッチを押してカーソルを移動します。続いて「分」の設定をおこないます。



3「自動終了時刻」(Auto Stop)を設定します。

①「自動立ち上げ時刻」の設定と同様にして「自動終了時刻」を設定します。



Start	OFF	07:00
Stop	OFF	23:00

②これで設定を終える場合は『ENTERスイッチ』を押します。右の画面が表示され設定内容が保存されます。
この時、『ON／OFFスイッチ』OFFの状態になります。



2012/04/01	SUN
Ver 0.10	17:26

③『ON／OFFスイッチ』を押すと抽出可能な状態になります。

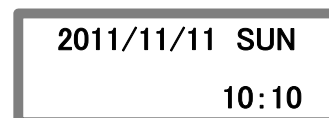
DRIP OK
L:00m R:00m

■日付と時刻の設定

- 現在の日付と時刻を設定します。メインスイッチを2日以上切ったままにすると日付、時刻（カレンダー）が工場出荷時の設定に戻ります。

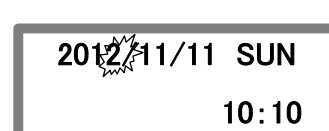
1 「日付と時刻」の設定画面に入ります。

- P33を参照して「日付と時刻」の設定画面に入ります。ディスプレイに右のような表示があらわれます。

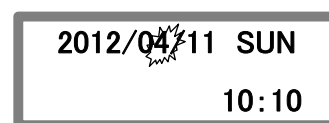


2 日付と時刻を設定します。

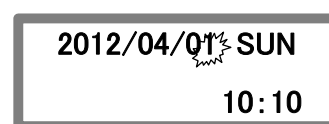
- ①“年”を西暦の4ケタで設定します。
↑スイッチを押して、設定したい“年”を表示します。



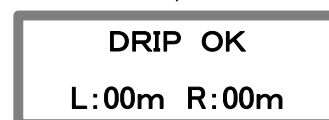
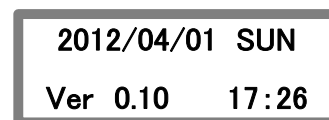
- ②“月”の設定をします。スイッチを押してカーソルを移動します。①と同様にして“月”を変更します。



- ③①、②の手順を繰り返して、日付、曜日、時、分を変更します。



- ④これで設定を終える場合は『ENTERスイッチ』を押します。右の画面が表示され設定内容が保存され『ON／OFFスイッチ』OFFの状態になります。



- ⑤『ON／OFFスイッチ』を押すと抽出可能な状態になります。

■定休日の設定(日付での設定)

- 1か月に3回まで、日付を指定して定休日を設定できます。定休日の設定のした日は、「自動立ち上げタイマー」機能が動作しません。
- 定休日の設定をしない場合は“00”にしておきます。

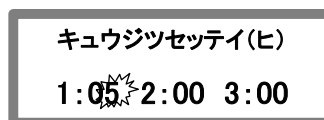
1「定休日の設定」(日付での設定)の画面に入ります。

- P34を参照して「定休日の設定」(日付)の設定画面に入ります。ディスプレイに右のような表示があらわれます。



2 定休日にする日付を設定します。

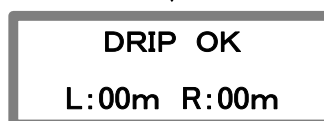
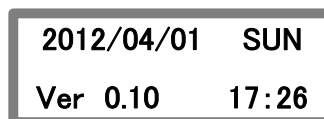
- ①週のうち、1回目の定休日を設定します。
↑スイッチを押して、設定したい日付にします。



- ②2回目以降の定休日を設定する場合は→スイッチを押してカーソルを移動させます。①と同様にして日付を変更します。



- ③『ENTERスイッチ』を押します。右の画面が表示され設定内容が保存されます。
この時、『ON／OFFスイッチ』OFFの状態になります。



- ④『ON／OFFスイッチ』を押すと抽出可能な状態になります。

■ 定休日の設定(曜日での設定)

- 1週間に2回まで、曜日を指定して定休日を設定できます。定休日の設定した曜日は、「自動立ち上げタイマー」機能が動作しません。
- 定休日の設定をしない場合はOFFにしておきます。

1 「定休日の設定」(曜日での設定)の画面に入ります。

- P34を参照して「定休日の設定」(曜日)の設定画面に入ります。ディスプレイに右のような表示があらわれます。

キュージツセツテイ(ヨウビ)

1: ~~OFF~~ 2: OFF

2 定休日にする曜日を設定します。

- ① 週のうち、1回目の定休日を設定します。
↑ スイッチを押すと、曜日が順に表示されます。
曜日はアルファベットの略語で表示されます。
MON(月)、TUE(火)、WED(水)、THU(木)、
FRI(金)、SAT(土)、SUN(日)、OFF(設定しない)。



キュージツセツテイ(ヨウビ)

1: ~~SUN~~ 2: OFF

- ② 2回目の設定をおこなう場合は → スイッチを押してカーソルを移動させます。①と同様にして曜日を変更します。



キュージツセツテイ(ヨウビ)

1: SUN 2: ~~OFF~~

- ③ これで設定を終える場合は『ENTERスイッチ』を押します。右の画面が表示され設定内容が保存されます。
この時、『ON/OFFスイッチ』OFFの状態になります。



2012/04/01 SUN

Ver 0.10 17:26



DRIP OK

L:00m R:00m

- ④ 『ON/OFFスイッチ』を押すと
抽出可能な状態になります。

ドリップコーヒーの抽出設定

●抽出設定は以下の設定項目があります。

●メインスイッチ:ON、ON/OFFスイッチ:OFF

2012/04/01 SUN

Ver 0.10 17:26



各抽出を選択したい場合は各抽出
スイッチを押します。



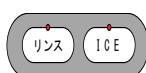
■抽出設定

・「抽出設定スイッチ」抽出設定を約3秒間押します。

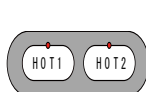
●抽出設定モード

ICE&HOT DRIPセッテイ

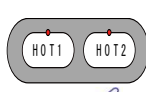
・ICE HI H2



IC 0200/20/2000/
00/0000/00/0000



H1 0050/12/2000/
00/0000/00/0000



H2 0060/15/1200/
00/0000/00/0000



■抽出設定の設定値変更

- ドリップコーヒーの抽出設定のしかたについて説明します。

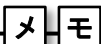
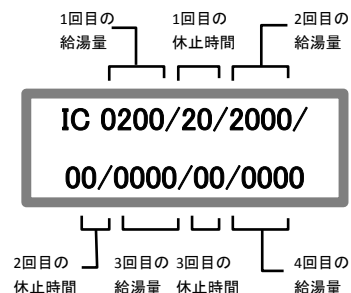
1 「ICE&HOT DRIPセッテイ」の設定画面に入ります。

- P40を参照して「チュウシュツセッテイ」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。

IC 0200/20/2000/
00/0000/00/0000

2 設定画面の数値は以下のことをあらわしています。

- ドリップコーヒー抽出時の給湯は、
最大4回に分割しておこなうことができます。
- 給湯量の単位は「cc」で、10cc刻みで設定できます。
“0000”～“9990”まで設定できます。
- 休止時間の単位は「秒」です。
“00”～“99”まで設定できます。
- ドリップタンクの容量は2100ccです。
IC 設定以外は給湯量の合計が2100ccを超えない
ようにしてください。



- 実際の抽出量設定については、P43の抽出設定のヒントを参考にしてください

3 「ICE」の設定値の変更をします。

- ①1回目の給湯量を設定します。
↑スイッチを押して、設定数値を表示します。



IC 0200/20/2000/
00/0000/00/0000

- ②1回目の休止時間を設定します。
→スイッチを押してカーソルを移動します。
①と同様にして数値を変更します。



IC 0200/30/2000/
00/0000/00/0000

- ③①、②の手順を繰り返して、「2回目の給湯量」以降の
設定をおこないます。
工程を終える場合は以降の休止時間を“00”に設定
します。

IC 0200/30/2000/
00/0000/00/0000

・3回目の給湯で
終了する場合

“00”を設定します。

4 「HOT1」、「HOT2」の設定値変更も、同様の手順でおこないます。

①1～3手順を繰り返して「HOT2」の設定をおこないます。

H1 0050/12/2000/
00/0000/00/0000

②設定後、『ENTERスイッチ』を押します。

右の画面が表示され設定内容が保存されます。

この時、『ON/OFFスイッチ』OFFの状態になります。



2012/04/01 SUN
Ver 0.10 17:26

③『ON/OFFスイッチ』を押すと抽出可能な状態になります。

DRIP OK
L:00m R:00m

ドリップコーヒーの抽出設定のヒント

1. 挽豆全体に十分ゆきわたる量のお湯をかける。(1回目の給湯)
2. 20～40秒の間放置する。(1回目の休止＝むらし)
3. 欲しいコーヒー量相当のお湯をかける。(2回目以降の給湯＝本抽出)

各々の設定量として下記を目安にしてください。

●1回目の湯量

使用する挽豆(g)の2倍の湯量(cc)を目安とします。

使用するコーヒー豆の種類、焙煎度合い、挽き具合(メッシュ)などによって豆が吸う湯量は異なります。また、ペーパーフィルターも湯を吸収するので、実際に抽出してみて給湯量を決定してください。ファンネルの下からコーヒーが落ちてくる状態で、ファンネル内の挽豆全体が十分濡れているのが理想です。

●むらし時間

少量抽出の場合は、抽出時間が短めになりますので、むらし時間を長めにとった方が良いでしょう。

逆に、大量抽出では、抽出時間が長くなりますので、抽出過多とならないように短めにします。

●本抽出

少量抽出では抽出時間が短い分、薄いコーヒーとなりやすいので、これを2分割ないし3分割して間に休止時間をとります。ハンドドリップで2回、3回の分割給湯するのと似た状況を作り出して、抽出過多をカバーすることができます。1. 5L前後の抽出量より少ない場合には、本抽出を3分割して、間に10～20秒の休止時間を入れる良いでしょう。

コーヒー取り出し量

●コーヒー取り出し量は以下の設定項目があります。

●メインスイッチ: ON、ON/OFFスイッチ: OFF

2012/04/01 SUN
Ver 0.10 17:26

取出設定

設定画面を移動するときは「取出設定スイッチ」を押します。

取出設定

■取出設定

・「取出設定スイッチ」取出設定を約3秒間押します。

●取出設定モード

コーヒー トリダシジカン
L small 007.0s

■『コーヒー取り出しスイッチ(小)』の設定

・『コーヒー取り出しスイッチ(小)』を押したときに出るコーヒー量を設定します。

取出設定

コーヒー トリダシジカン
L large 010.0s

■『コーヒー取り出しスイッチ(大)』の設定

・『コーヒー取り出しスイッチ(大)』を押したときに出るコーヒー量を設定します。

取出設定

コーヒー トリダシジカン
L free 150.0s

■『コーヒー取り出しスイッチ(連続)』の設定

・『コーヒー取り出しスイッチ(連続)』を押したときに出るコーヒー量を設定します。

取出設定

コーヒー トリダシジカン
R small 007.0s

■『コーヒー取り出しスイッチ(小)』の設定

・『コーヒー取り出しスイッチ(小)』を押したときに出るコーヒー量を設定します。

取出設定

コーヒー トリダシジカン
R large 010.0s

■『コーヒー取り出しスイッチ(大)』の設定

・『コーヒー取り出しスイッチ(大)』を押したときに出るコーヒー量を設定します。

取出設定

コーヒー トリダシジカン
R free 150.0s

■『コーヒー取り出しスイッチ(連続)』の設定

・『コーヒー取り出しスイッチ(連続)』を押したときに出るコーヒー量を設定します。

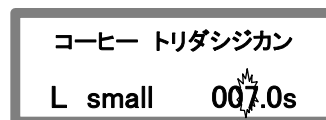


■コーヒー取り出し量(「小」「大」「連続」)の設定値変更

- 『コーヒー取り出しスイッチ』を押すと出るコーヒー量を時間で設定をします。

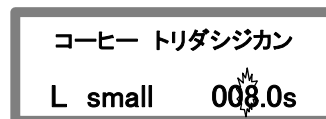
1『コーヒー取り出しスイッチ(小)』の設定画面に入ります。

- P44を参照して「コーヒー取り出し時間」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。



2 コーヒーを取り出す時間を変更します。

- 最初に左側のコーヒー(小)で取り出す時間を変更します。
単位は「秒」です。“000. 1”～“999. 9”まで設定
できます。

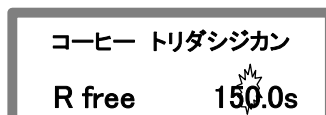
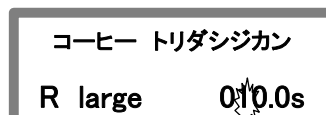
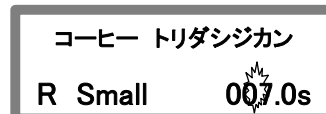
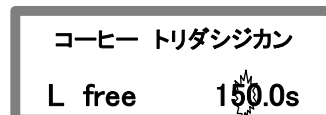
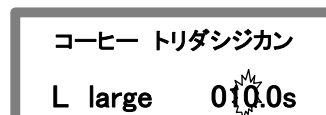


1秒間に約20ccのコーヒーが出ます。

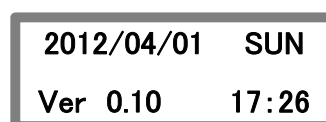
スイッチを押して、設定したい数値に変更します。

3『コーヒー取り出しスイッチ(大)、(連続)』の設定値変更も同様におこないます。

- ①「取出設定」スイッチを押して、ページを送り、
その他のコーヒー取り出しスイッチも設定します。
1、2の手順を繰り返して『コーヒー取り出しスイッチ
(大)』および『コーヒー取り出しスイッチ(連続)』の
変更をおこないます。

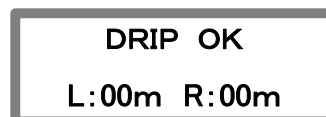


左側(L)の取出し量の設定が完了したら、
次に同様に右側(R)の取出し量も設定します。



- ②設定完了後、『ENTERスイッチ』を押します。
右の画面が表示され設定内容が保存されます。
この時、『ON/OFFスイッチ』OFFの状態になります。

- ③『ON/OFFスイッチ』を押すと抽出可能な状態に
なります。



温度、保温タイムリミット

●温度、保温タイムリミットには以下の設定内容があります。

●メインスイッチ:ON、ON/OFFスイッチ:OFF

2012/04/01 SUN
Ver 0.10 17:26



操作

プログラムモードを移動するときは
『PROGスイッチ』を押します。

オンスイタンク オンD
95°C

■温水タンク温度の設定

・ドリップコーヒーを抽出する時の給湯や熱湯取り出し
をする際に使用するお湯の温度を設定します。

コーヒータンク ホオン オンD
L:80°C R:80°C

■コーヒータンク保温温度の設定

・コーヒータンクの保温温度の設定をします。

7回



コーヒー ホオンジカン
L:30m R:30m

■コーヒー保温時間の設定

・ドリップタンク内でコーヒーを保存する際のタイム
リミットを設定します。

■ 温水タンク温度の設定値変更

- ドリップコーヒーを抽出する際の給湯や熱湯取り出し時に使用したい湯温を設定します。

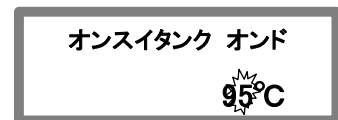
1 「温水タンク温度」の設定画面に入ります。

- P46を参照して「温水タンク温度」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。



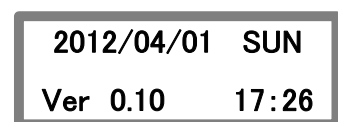
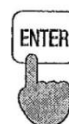
2 「温水タンク温度」の設定値変更をおこないます。

- ①「温水タンク温度」を設定します。単位は「°C」です。
“00”～“97”まで設定できます。
↑スイッチを押して、設定したい数値にします。

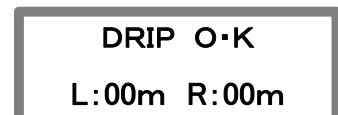


- 温水タンク温度を必要以上に高い温度に設定すると、お湯に気泡が生じ、コーヒー抽出量が不安定になります。また、98°C以上に設定すると、オーバーフローした熱湯がドレンパンに流れ、ドレンプレート穴から湯気が噴き出します。
温水タンク温度は85°C～97°Cの範囲内で設定してください。

- ②これで設定を終える場合は『ENTERスイッチ』を押します。右の画面が表示され設定内容が保存されます。
この時、『ON/OFFスイッチ』OFFの状態になります。



- ③『ON/OFFスイッチ』を押すと抽出可能な状態になります。

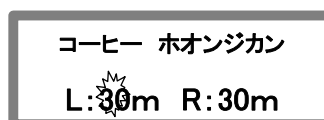


■コーヒー保温時間の設定

- ディスプレイ表示の「♪」のマークは保温制御機能が有効になっていることを表しています。
※ドリップタンク内の過剰な温度上昇を防止するため、タンク内のコーヒー量が少量の場合や、長時間保温を継続した場合は安全を優先し、自動で保温機能をOFFします。
- ドリップタンク内でコーヒーを保存する際の保温時間のタイムリミットを設定します。
- ドリップコーヒーの抽出が完了すると、保温時間のカウントが始まります。
保温時間が設定したタイムリミットの時間を経過すると、保温時間表示の点滅とブザーでお知らせします。(保温タイムリミット)
- 保温時間タイムリミットのお知らせ点滅は次のコーヒーを抽出するまで続きます。
- タイムリミットになる前に、ドリップタンク内のコーヒーがなくなった場合でも、時間のカウントは止まらず継続します。再びコーヒーを抽出すると“0”からカウントを始めます。
- 保温時間が設定したタイムリミットを過ぎた場合でも保温機能は継続します。

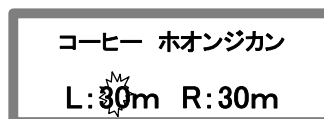
1 「コーヒー保温時間」の設定画面に入ります。

- P46を参照して「保温タイムリミット」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。

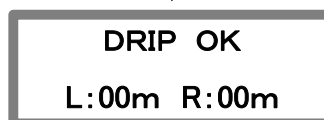
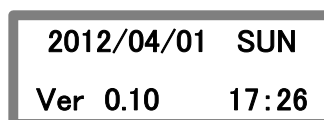


2 コーヒー保温時間の設定をおこないます。

- ①保温のタイムリミットを設定します。単位は「分」です。
“00”～“99”まで設定できます。スイッチを押して、設定したい数値にします。“00”にすると、保温時間経過のお知らせ機能は作動しません。
※「保温経過時間」は表示されますが、表示の点滅はせず、ブザーも鳴りません。









- ②『ENTERスイッチ』を押します。右の画面が表示され設定内容が保存されます。
別の設定をおこなう場合は『PROGスイッチ』を押して、モードを移動します。
これで設定を終える場合は『ENTERスイッチ』を押します。プログラムモードが終了します。
この時、『ON/OFFスイッチ』OFFの状態になります。







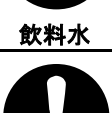


- ③『ON/OFFスイッチ』を押すと抽出可能な状態になります。

6 据付けについて

本機の据付け時には必ず守ってください。

⚠ 警告	
<p>●据付工事は、お買上げ店または専門業者に依頼すること</p> <p>ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災の原因になります。</p>	 <p>連絡</p>
<p>●アース工事を必ずおこなうこと</p> <p>アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。 アース線が不完全な場合は、感電の原因になります。 (電気工事士によるD種接地工事が必要ですので、電気工事店に依頼してください。)</p>	 <p>アース工事</p>
<p>●本機の電源は、専用の漏電遮断器サーキットブレーカーもしくは、それと同等の設備に直接接続すること</p> <p>電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、およびタコ足配線をした場合には、感電や発熱、火災の原因になります。</p>	 <p>専用電源</p>
<p>●電気工事は、「電気設備に関する技術基準」、内線規定」に従って施工し、必ず専用回路を使用すること</p> <p>電源回路不良、容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になることがあります。</p>	 <p>電気工事</p>
<p>●湿気の多い所や、水のかかり易い場所に据付けないこと</p> <p>絶縁低下から漏電、感電の原因になります。</p>	 <p>湿気禁止</p>
<p>●電源コードを傷つけないこと</p> <p>加工したり、引っ張ったり、たばねたり、また重いものを乗せたり、挟み込んだりすると、電源コードが破損し、感電、火災の原因になります。</p>	 <p>禁止</p>

⚠ 注意	
<p>●床面が丈夫で平らな所に水平になるように据え付けること</p> <p>据付けに不備があると転倒、落下によるケガなどの原因になることがあります。</p>	 水平据付け
<p>●機械左右の側面は、壁および物から100mm以上、背面は30mm以上空けること</p> <p>熱がこもると、電気部品に影響をおよびし、故障の原因になることがあります。</p>	 周囲空ける
<p>●直射日光の当たる所や、周囲の温度が32℃を超える高温の場所には据付けないこと</p> <p>電気部品の故障の原因になります。</p>	 高温禁止
<p>●水をこぼしてもよい所に据付けること</p> <p>使用中にコーヒーや湯などが飛び散ることがありますので、濡れると不都合なところでは、防止処置をしてください。</p>	 防水処理
<p>●凍結の恐れのある場所へは据付けないこと</p> <p>機械の故障の原因および、給水管の破裂から浸水し、周囲を濡らす原因になることがあります。凍結の恐れのある場所への据付けの場合は、お買上げ店にご相談ください。</p>	 相談
<p>●給水に使用する水は、必ず飲料水を使用すること</p> <p>他の水は、健康障害の原因になることがあります。</p>	 飲料水
<p>●水道圧力は、流れている状態で0.1MPa以上で使用する</p> <p>水圧が低いと、機械は正常に動作しません。0.1MPa未満の場合は、お買上げ店にご相談ください。</p>	 適正水圧

据付工事

はじめに、下記の配管用付属品がそろっているか確認してください。

配管用部品

- | | |
|----------------------------------|----|
| 1.ステンレスフレキシブルホース(1m) | 1本 |
| 2.排水用ドレンホース(2.0m) | 1本 |
| 3.排水用エルボ(青色φ16 ナイロン66) | 1個 |
| 4.排水用ストレート継手(青色φ16 ナイロン66) | 1個 |
| 5.減圧弁 | 1個 |
| 6.面ナットアダプター | 1個 |

＜別売品＞

- | | |
|--|----|
| 1.浄水器ヘッド(エバピュアQC7型 異径ニップル3/8×1/2付) | 1個 |
| 2.浄水器カートリッジ(7CB5-S) | 1個 |
| 3.ステンレスフレキシブルホース(1.5m) | 1本 |

据付前の準備

●本機を据付けされるには、事前に下記の設備をお客様側にておこなっていただく必要があります。

据付台

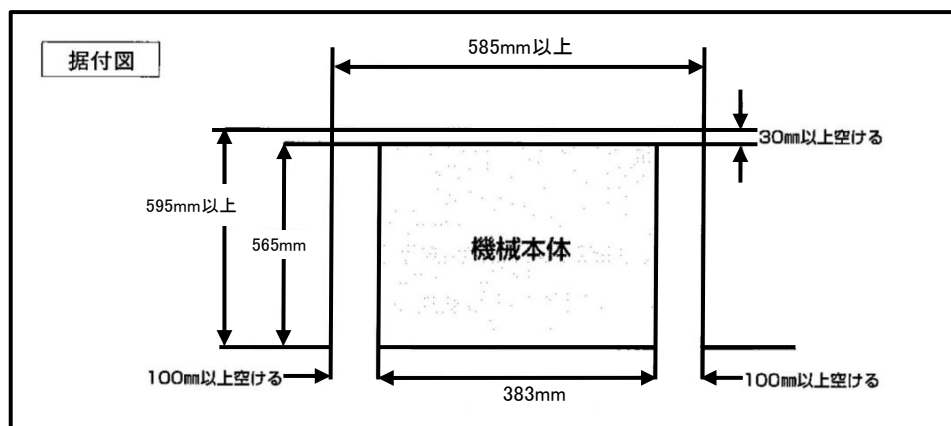
①据付台の下には、浄水器、配管設備のスペースが必要です。

目安として、機械本体と同等のスペース(面積)を確保してください。

②機械の周辺は、左右の壁面から100mm以上、背面から30mm離してください。

特に機械の量側面は、電子制御部品がありますので、必ず空けておいてください。

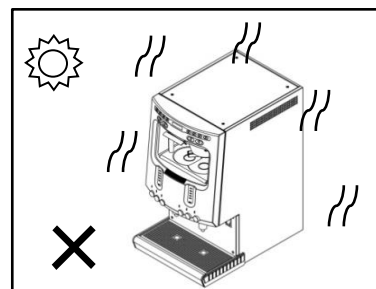
据付台の上方は、高さ1000mm以上のスペースを確保してください。



③据付ける場所として、次のことに注意してください。

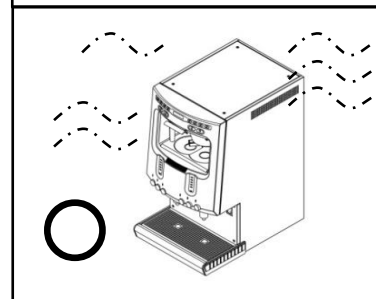
1) 直射日光の当たる所や、機械の周囲の温度が32℃を超える高温の場所には据付けないでください。

高温になると、電気部品の故障の原因となります。



2) 風通しの良い所に据付けてください。

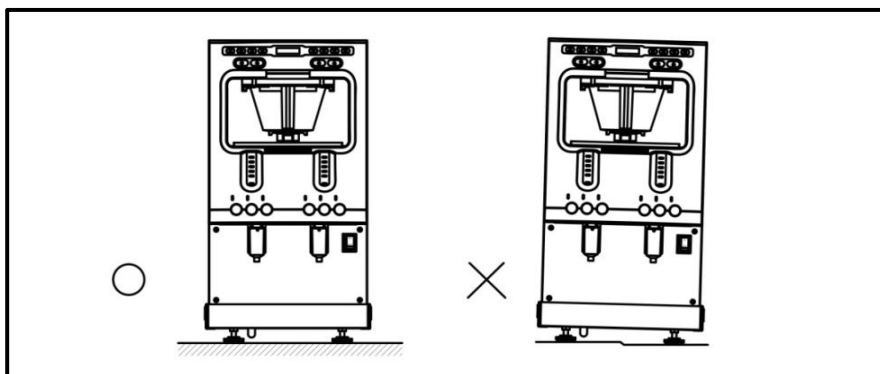
風通しが悪いと蒸気がこもり、機械の寿命を短くしたり漏電の原因となります。



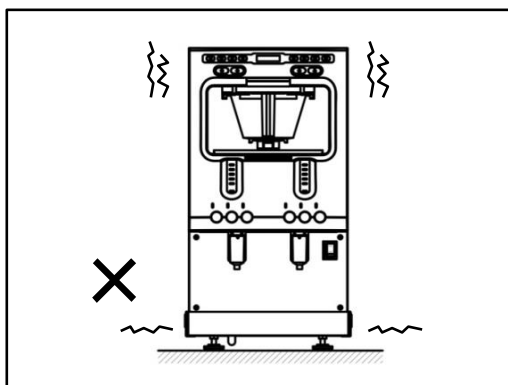
3) 水をこぼしてもよい所へ据付けてください。

使用中にコーヒーや湯などが周囲に散ることがありますので、濡れると不都合な所では、防水処置をしてください。

4) 丈夫で凹凸のない、水平な台へ据え付けてください。(アジャスト脚で水平に調整できます。)



5) 振動のない所へ据付けてください。



水道

①水道栓は、ステンレスフレキシブルホースが取り付けられるように、コックの先に「G1/2オスネジ」付きのものを使用してください。

②水道圧力は、流れている状態で0.1MPa以上必要です。

0.1MPa未満は、機械の調整を要しますので、お買上げ店にご連絡ください。

電気

①機械本体設備容量

CT-F(P)S/200: 単相200V 50/60Hz ブレーカー20A

CT-F(P)3/200: 三相200V 50/60Hz ブレーカー15A

②本機の電源は、必ず専用の漏電遮断器付サーキットブレーカーもしくは、それと同等の設備に直接接続してください。

③アース端子は、必ず設けてください。

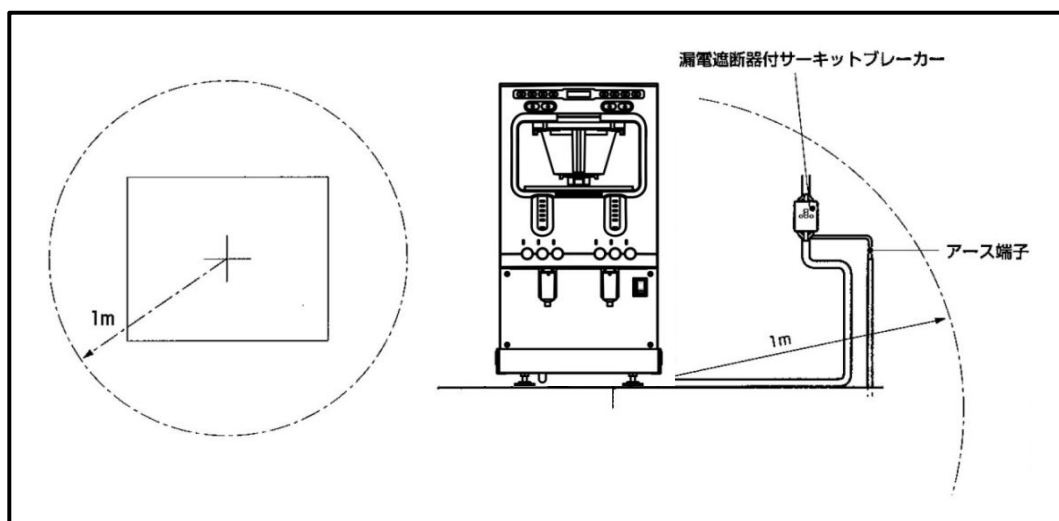
アースは、D種設置工事が必要です。電気工事店に工事を依頼してください。

④電源に近いところ(できれば1m以内)へ据付けてください。

電源コードの長さは下記のとおりです。

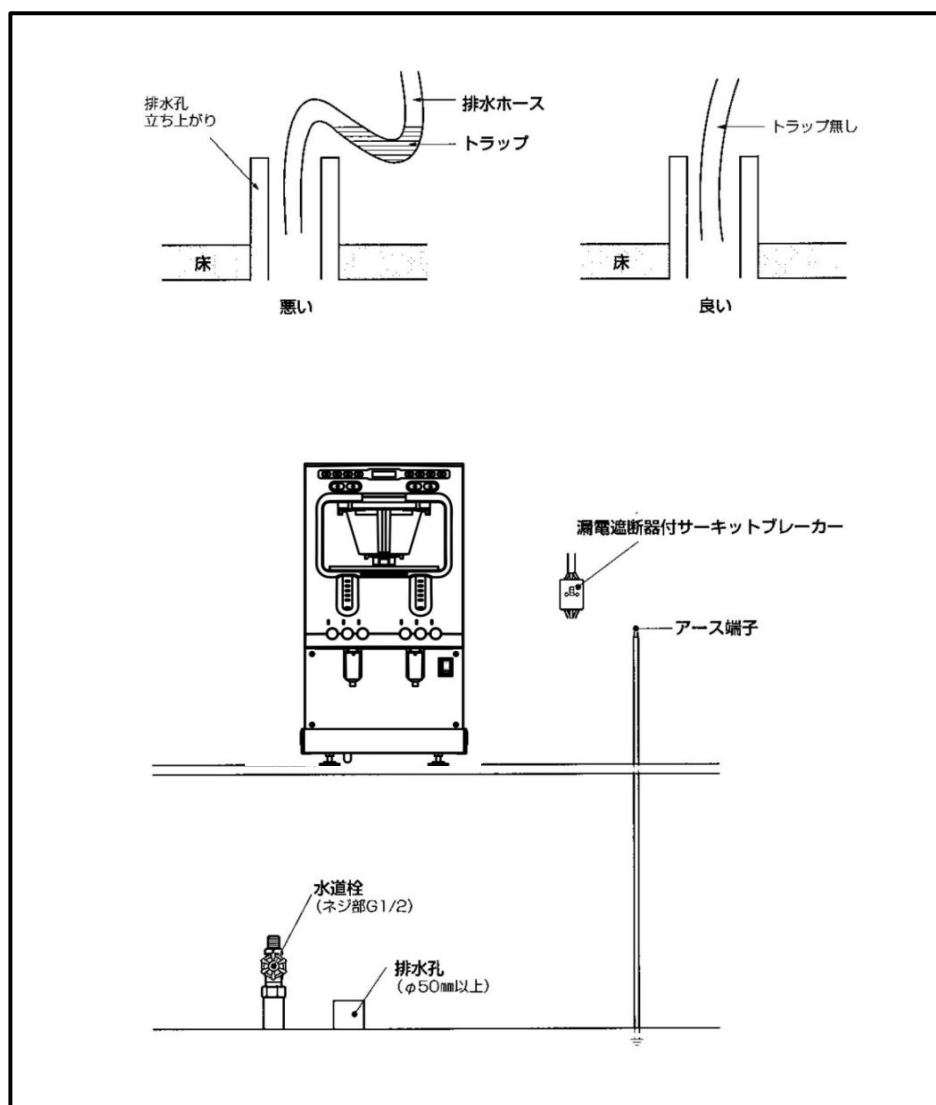
CT-F(P): 約 2m

⑤本機の電源コードを電源設備に接続する際、電源コードが長すぎる場合は、たばねたりせず、少し余裕を持たせて適切な長さにカットして接続してください。

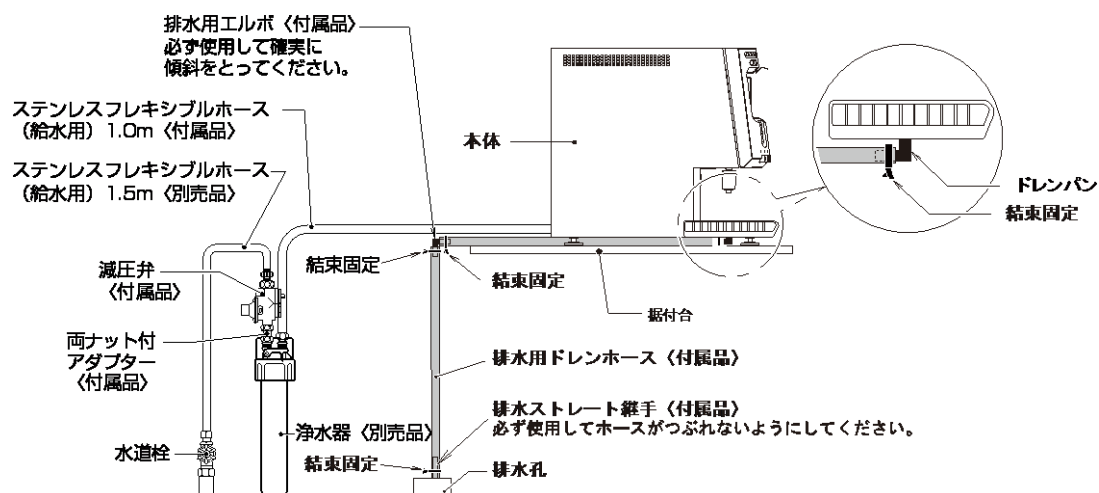


排水設備

- ①排水孔、または排水溝は、機械近くの低い所に設けてください。
- ②排水孔の大きさは、直径φ50mm以上にしてください。
- ③立ち上がりは、できるだけ低くしてください。
立ち上がりが高くと、トラップが発生し、排水ができなくなります。
- ④熱湯を流すことがありますので、耐熱性のある排水設備を設けてください。



②下図は、据付台に穴加工ができない場合の据付け方法です。



据付・接続

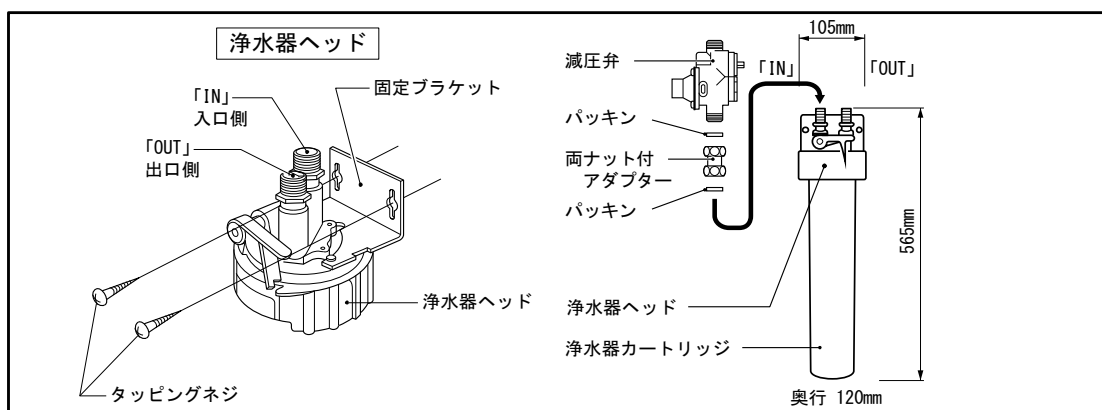
全体レイアウトが決まったら、以下の要領で据付・接続をしてください。

①浄水器〈別売品〉

浄水器を取り付けないとコーヒーの味に影響を与えます。また、水道水内のごみ等により機械故障の原因となることがありますので、浄水器は必ず付けてください。

1) 浄水器ヘッドの取り付け方

- ①浄水器ヘッドの固定ブラケットを、据付台下の壁面にタッピングネジか釘で取り付けてください。
- ②浄水器「IN」側に減圧弁の「OUT」側を取り付けてください。



2)カートリッジを浄水器ヘッドに取り付けてください。

浄水器カートリッジの取り付け方(取り外し方)は、カートリッジに同梱されている取扱説明書をご覧ください。

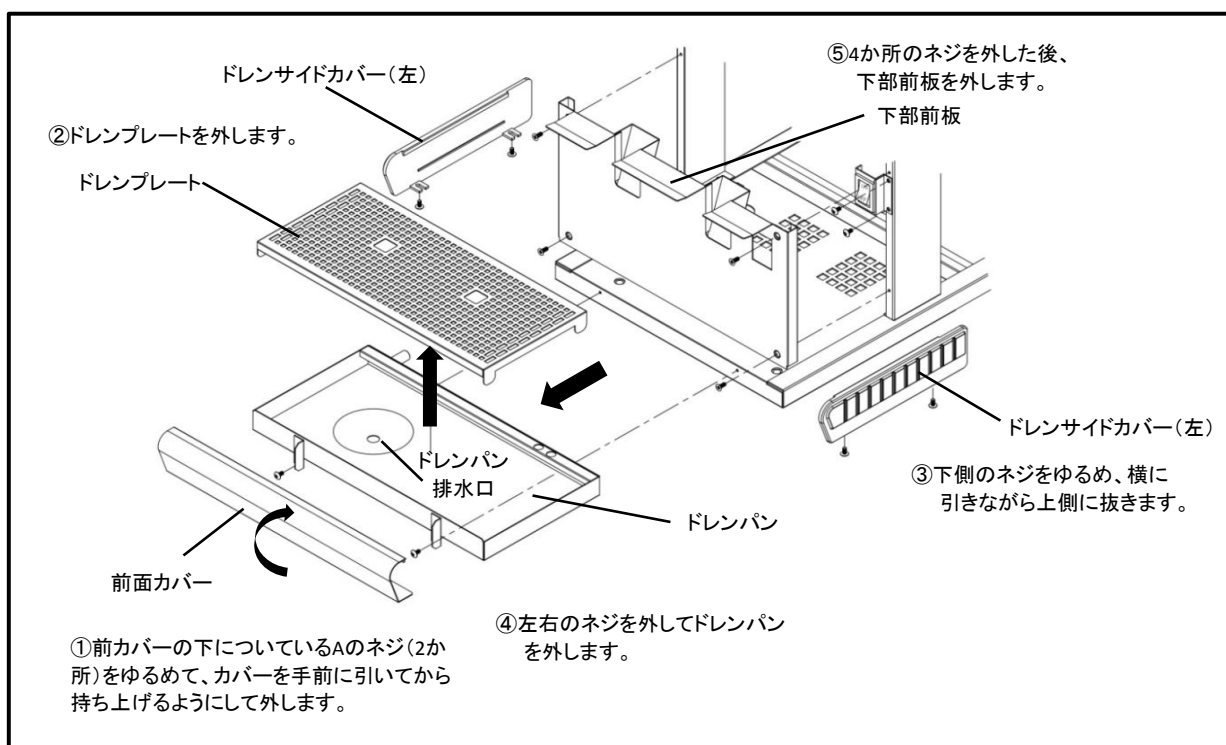
3)浄水器内部の洗浄方法

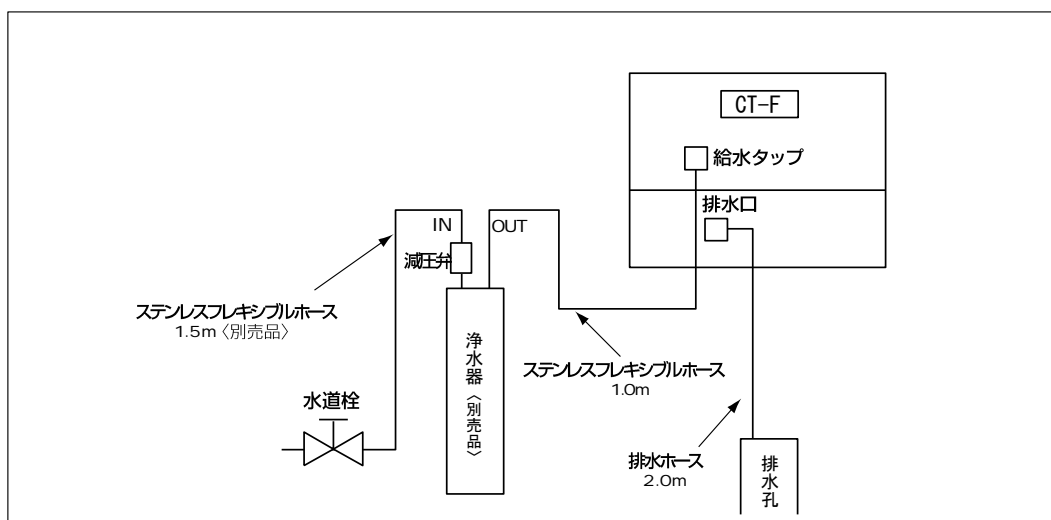
浄水器は、機械に取り付ける前に約3分間水を流して内部を洗浄してください。

- ①水道栓と、減圧弁「IN」側をステンレスフレキシブルホース(1.5m)で接続してください。
 - ②浄水器「OUT」側ステンレスフレキシブルホース(1.0m)に接続し、ホースのもう一方の端を排水孔 または、排水溝へ差し込んでください。
 - ③水道栓を開いて、約3分間水を出し、内部のゴミやホコリなどを流してください。
- 浄水器は条件により異なりますが、半年または1年毎にカートリッジを交換してください。
交換につきましては、お買上げ店にご相談ください。

②給排水の配管

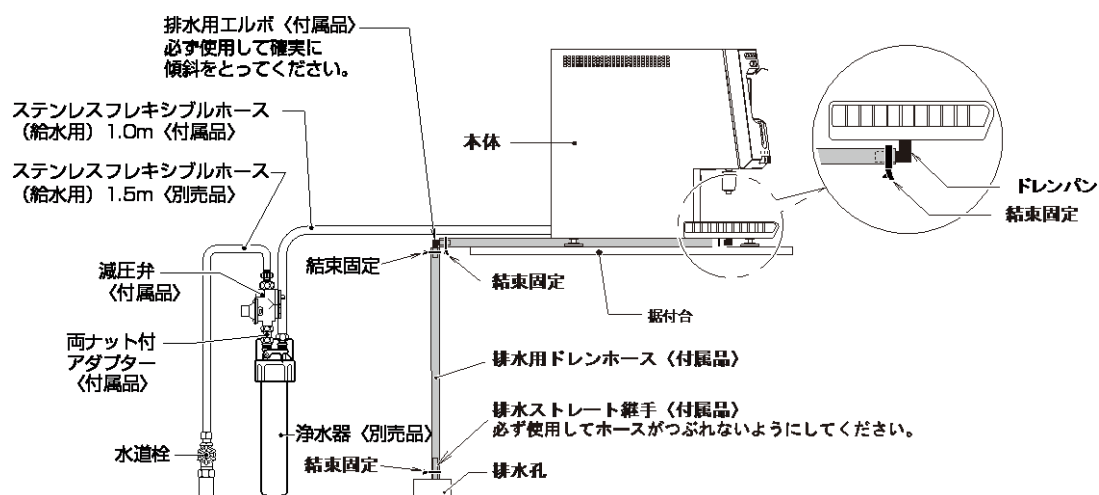
- 1)内部の洗浄が終わった浄水器「OUT」側に接続されたステンレスフレキシブルホース(1.0m)と、機械内の給水タップを接続してください。
 - 2)機械のドレンパン排水継手に、排水ホースを接続し、もう一方の端を排水孔に差し込んでください。
- 下図を参照して本体のドレンパン、下部前板などを外してください。





※据付けが完了しましたら、水道の元栓を開け、配管部に水漏れがないか確認してください。

【据付台に穴が開けられない場合】

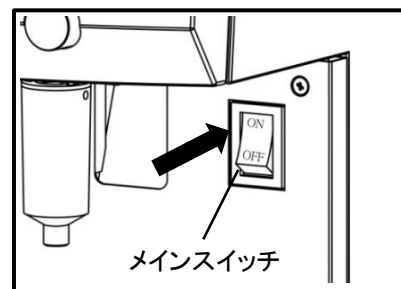


③配線

電源コードを、専用の漏電遮断器付サーキットブレーカー等に直接接続してください。
アース線(緑色の線)をアース端子に接続してください。

据付後の動作確認

- ①水道の元栓を開いてください。
- ②本機専用電源(漏電遮断器付サーキットブレーカー)を入れてください。
- ③機械前面にある「メインスイッチ」を「ON(入)」にしてください。
- ④操作パネル部の「電源スイッチ」を押してください。
- ⑤自動的に、温水タンクへの給水が始まります。
給水完了時間……約5分
- ⑥タンクへの給水が完了すると、自動的にタンクの加熱が始まります。
温水タンクの昇温時間……約10分
- ⑦温水タンクの昇温が完了すると「抽出可ランプ」が点灯します。
- ⑧「抽出」スイッチを押して、ドリップシャワープレートから湯が出るか確認してください。



※この操作は、温水タンクの上部に残っている空気を抜く操作も兼ねていますので、据付け後の動作確認の際、必ずおこなってください。

- ⑨「コーヒー取り出しスイッチ(連続)」を押してドリップタンク内に溜まった湯を抜いてください。
この際、ドレンパンに落ちたお湯がスムーズに排水されるか確認してください。
排水管につまりがあると、自動洗浄の際、排水がドレンパンより溢れる恐れがあります。

これで据付け完了です。

仕 様

【CT-F(P)S/200、CT-F(P)3/200】

品名	コーヒーマシン「カフェトロン」	
型式	CT-F(P)S/200	CT-F(P)3/200
機能	ドリップ1連 ドリップタンク2連	
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自動立ち上げ/停止タイマー(定休日設定付) ・ドリップコーヒー、保温時間表示 ・ドリップコーヒー、保温時間タイムリミットブザー ・ドリップコーヒー定量取り出し機能 ・ドリップタンク自動洗浄機能 ・手動ファンネルロック機構 	
外形寸法	幅383・奥行555・高さ・710mm (突起物を含む奥行 565mm)	
質量	38kg	
電源	単相 200V 50/60Hz	三相 200V 50/60Hz
電流	20A	11.5A
消費電力	4kw	4kw
昇温時間	15分(水温により多少異なります)	
ドリップタンク容量 (オーバーフロー位置まで)	2. 1L×2	
ドリップコーヒー抽出温度	標準設定 95℃(85~97℃可変)	
ドリップコーヒー抽出能力	24L/h 1回あたりの抽出量は1~2Lの範囲で自由設定。蒸らし時間も可変。	
水道圧力	0. 1~0. 74MPa(流水時)	
電源コード	長さ:2m(底面取り出し口からの寸法) 外径12mm	
	3芯	4芯

※上記の仕様は、品質向上のため予告なしに変更されることがありますのでご了承ください。

付属品

[はじめに、下記の付属品がそろっているかチェックしてください。]

No	品 名	個数
1	ファンネル(2L用)	1個
2	ドリップペーパーフィルター(φ270mm)	50枚
3	酸素系漂白剤「バブルクリーン」(240g)	1本
4	計量カップ(洗浄剤用)	1個
5	洗浄剤用ストレーナー	2個
6	排水エルボ	1個
7	排水ストレート継手	1個
8	排水用ドレンホース	1本
9	取扱説明書(本書、保証書付)	1部

●配管用付属品はP51をご覧ください。

エフ・エム・アイ商品保証書

《本書は、お客様の正常な使用状態において万一故障した場合、本書記載内容で無料修理をおこなうことをお約束するものです。保証期間経過後の修理等につきましては、お買上げ店にご相談ください。》

保証期間

保証の効力は、商品お買上げと同時に発生いたします。
その期間は、1年間有効とし、機器本体を対象とします。

保証規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常なご使用状態で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、お買上げ店にご連絡ください。弊社にて「**無料修理**」いたします。
- 無料修理を受ける場合は、お買上げ店にご依頼のうえ、出張修理に際しまして本書をご提示ください。
- 保証期間内でも次の場合には「**有料修理**」となります。
 - ご使用上の誤り、および製品の改造や不当な修理により発生した故障および損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧その他の外部要因による故障および損傷。
 - 車輛、船舶に搭載して使用された場合の故障および損傷。
 - お買上げ後の転倒、落下や取付場所の移動などによる故障および損傷。
 - 本書の提示がない場合。
 - 本書にお客様名、お買上げ年月日、お買上げ店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
 - 指定外の使用電源（電圧、周波数）の使用による故障および損傷。
 - 本書は日本国内においてのみ有効です。
 - 消耗部品（Ｏリング、パッキン、チューブ）は、保証の対象範囲から除外させていただきます。

※この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。
保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げ店にお問い合わせください。

修理対応期間（補修用性能部品の保有期間）

当社では、本製品修理対応期間（補修用性能部品の保有期間）を販売打ち切り後8年とさせていただいております。修理対応期間（補修用性能部品の保有期間）を終了している場合は、修理のご依頼をお受けできないことがあります。

品 名		カフェトロンフレッシュ		
型 式		<input type="checkbox"/> CT-F(P)S/200 <input type="checkbox"/> CT-F(P)3/200	製造番号	
お 客 様	ご芳名	様		
	〒 TEL ()			
お 買 上 げ 店	ご住所			
	店名・住所			
お買上げ日	年 月 日	無料修理保証期間	お買上げ日より1年間	

株式会社エフ・エム・アイ

東 京：〒106-0041 東京都港区麻布台1丁目11番9号 Tel.03(5561)6521

大 阪：〒538-0044 大阪市鶴見区放出東3丁目11番31号 Tel.06(6969)9393

営 業 所 札 幌：〒003-0002 札幌市白石区東札幌二条5丁目4番1号 Tel.011(813)8651

仙 台：〒983-0034 仙台市宮城野区扇町2丁目1番9号 Tel.022(238)5711

名古屋：〒454-0822 名古屋市中川区四女子町2丁目46番地 Tel.052(361)7891

広 島：〒731-0102 広島市安佐南区川内6丁目43番9号 Tel.082(876)1855

福 岡：〒812-0839 福岡市博多区那珂1丁目30番21号 Tel.092(481)2931

出張所 北 陸：〒921-8027 金沢市神田1丁目23番11号 Tel.076(243)7810

沖 縄：〒901-2214 宜野湾市我如古1丁目54番21号 Tel.098(870)2766

サービス盛 岡：〒020-0124 盛岡市厨川4丁目14番5号 Tel.019(648)5390

ステーション 四 国：〒768-0012 香川県観音寺市植田町155番地1 Tel.0875(57)5161

鹿児島：〒890-0073 鹿児島市宇宿1丁目15番8号 Tel.099(263)8281

東京修理工場：〒130-0011 東京都墨田区石原4丁目35番7号 Tel.03(5819)1280

ホームページ <http://www.fmi.co.jp/>